

# 転倒災害に関する実態調査結果

平成 26 年 11 月

長野労働局労働基準部健康安全課

## 調査の概要

### 1 調査の目的

長野労働局管内において転倒災害が多発している現状にあるため、転倒災害の発生状況及び原因等の詳細を明らかにするとともに、その結果を踏まえて有効な防止対策を検討し、事業場及び県民に対して普及啓発を図ることを目的としている。

### 2 調査の対象

長野労働局管内において、平成 25 年度（平成 25 年 4 月～平成 26 年 3 月）に発生した休業 4 日以上労働災害について、事故の型が「転倒」となっているもの（重機等の転倒、自転車、バイクの転倒を除く。）、及び事故の型が「墜落、転落」となっているもののうち、階段で足を踏み外すか又は転倒したことが災害の原因となっているものを対象とした。

(注)「労働災害」とは、労働者が業務中に業務に起因して受けた業務上の災害のことで、業務上の負傷、業務上の疾病及び死亡をいう。

なお、通勤災害による負傷、疾病及び死亡を除く。

### 3 調査の時期

平成 26 年 8 月 1 日から 8 月 20 日に調査を行った。

### 4 調査事項

事業所に関する事項及び被災労働者に関する事項に区分し、別紙「転倒災害に関する実態調査票」に掲げる項目について調査を行った。

### 5 調査の方法

長野労働局管内の労働基準監督署（9 署）が、調査票を対象事業場へ郵送し、対象事業場の記入担当者が記入した後（被災労働者に関する事項については、記入担当者が本人との面談等により記入した。）、労働基準監督署に返送し、その後長野労働局労働基準部健康安全課に回付して実施した。

### 6 有効回答率

79.2% 回収事業場数 422 / 対象事業場数 533（送付事業場実数 489）

(注)同一事業場において複数の転倒災害が発生している場合は、被災労働者ごとに 1 事業場とみなして回答率を集計した。

# 目次

I 事業場に関する事項	
1 業種別・規模別の割合	1
2 安全管理者等の選任の有無	1
3 取り組んでいる安全衛生対策	1
4 根絶のため重点的に防止対策を講じている災害	2
5 同種災害の再発を防止するための対策の有無	2
6 災害原因の分析等について組織的な検討の有無	3
7 過去3か年における転倒災害の発生状況	3
8 転倒災害防止対策の実施状況(調査対象の転倒災害発生前)	3
9 労災保険請求の有無	4
II 被災労働者に関する事項	
1 男女別・年齢別の割合	4
2 業種別・年齢別の割合	5
3 雇用形態別の割合	5
4 職種別の割合	6
5 勤続年数別の割合	6
6 年齢別休業日数	6
7 業種別被災場所	7
8 業種別転倒面の種類	10
9 転倒面の状況	12
10 転倒した場所の照度(明るさ)	13
11 業種別発生状況	13
12 男女別発生状況	14
13 雇用形態別発生状況	14
14 職種別発生状況	14
15 勤続年数別発生状況	15
16 月別発生状況	16

17 滑った時の転倒面の状況.....	16
18 発生原因.....	17
19 発生時の両手の状態.....	17
20 発生時の履物の種類、材質・形状.....	17
21 発生曜日、時間帯.....	18
22 災害発生前の上司等からの注意・指示の有無.....	19
23 過去に怪我をした経験、ヒヤリ・ハット等の有無.....	19
24 体力づくり等で取り組んでいる運動等.....	20
25 転倒災害に対する注意、安全意識.....	20
Ⅲ 冬季要因(積雪又は凍結)により発生した転倒災害の状況	
1 業種別の割合.....	21
2 男女別の割合.....	21
3 職種別の割合.....	21
4 被災場所別の割合.....	22
5 月別の割合.....	22
6 発生時間帯別の割合.....	23
7 発生原因.....	23
8 発生時の両手の状態.....	23
9 発生時の履物の種類、材質・形状.....	24
集計表.....	25
転倒災害に関する実態調査票.....	35
転倒災害に関する実態調査(回答票).....	40



## I 事業場に関する事項

### 1 業種別・規模別の割合【表 I-1】

業種別にみると、「卸・小売業」が最も多く 15.4%を占めており、次いで「社会福祉施設」(11.8%)、「食料品製造業」(11.4%)の順となっている。また、規模別では、100人未満の事業場が全体の7割を占めている。

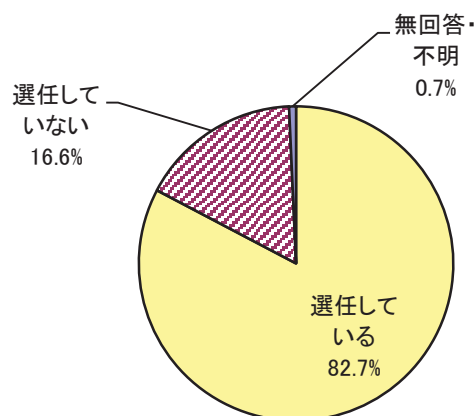
表 I-1 業種別・規模別の割合

業 種	規 模					合計	構成比 (%)
	～9人	10～49人	50～99人	100～299人	300人以上		
食料品製造業	4	21	4	11	8	48	11.4
機械・金属製造業		6	10	5	3	24	5.7
上記以外の製造業	4	3	2	3	4	16	3.8
建設業	8	12	2		1	23	5.5
道路旅客運送業		4	4	4	2	14	3.3
道路貨物運送業	1	9	9	4		23	5.5
林業	2	2	1			5	1.2
卸・小売業	5	20	23	13	4	65	15.4
病院・医院	1	1	1	3	3	9	2.1
社会福祉施設	3	16	19	11	1	50	11.8
旅館・ホテル業	1	7	7	3	1	19	4.5
飲食業	2	11	1		1	15	3.6
清掃・ビルメンテナンス業	1	1	2	4	7	15	3.6
警備業		5			1	6	1.4
その他	9	29	24	17	11	90	21.3
合 計	41	147	109	78	47	422	100.0
構成比(%)	9.7	34.8	25.8	18.5	11.1	100.0	

### 2 安全管理者等の選任の有無【図 I-1】

安全管理者等（法令により選任が義務付けられている安全管理者、安全衛生推進者、及び小売業や社会福祉施設など「労働安全衛生法施行令第2条第3号に掲げる業種における安全推進者の配置等に係るガイドライン」に基づき選任している安全推進者）を選任している事業場の割合は、8割を超えている。

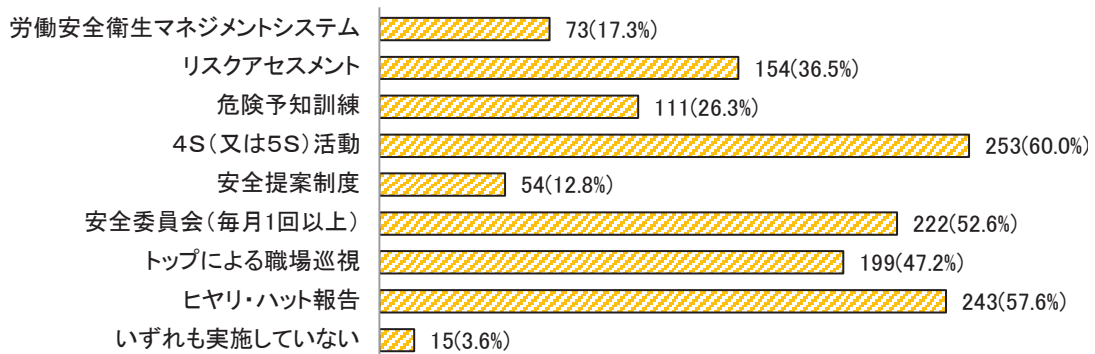
図 I-1 安全管理者等の選任状況



### 3 取り組んでいる安全衛生対策【図 I-2】

安全衛生対策として取り組んでいるものは、「4S・5S活動」(60.0%)が最も多く、次いで「ヒヤリ・ハット報告」(57.6%)、「安全委員会（毎月1回以上）」(52.6%)、「トップによる職場巡視」(47.2%)の順となっている。また、「リスクアセスメント」は36.5%にとどまっている。

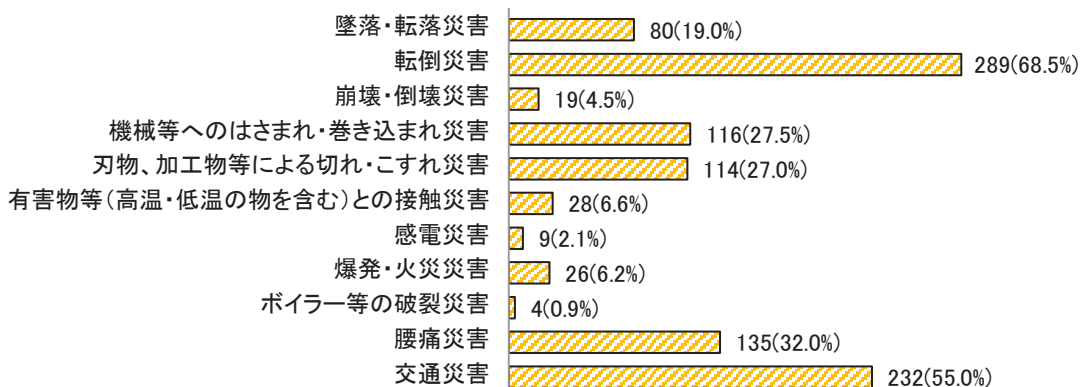
図 I - 2 取り組んでいる安全衛生対策(複数回答)



#### 4 根絶のため重点的に防止対策を講じている災害【図 I - 3】

事業場で根絶したいと考え、重点的に防止対策を講じている災害は、「転倒災害」が 68.5% で最も多くなっており、転倒災害防止対策に対する関心の高さが窺える。

図 I - 3 根絶したい重点対策(最大3つまで)



#### 5 同種災害の再発を防止するための対策の有無【図 I - 4、表 I - 2】

調査の対象となった転倒災害について、災害原因の分析を行い、再発防止対策を講じている事業場は約8割を占めているが、再発防止対策を実施していない事業場の規模別の内訳をみると、安全管理者の選任義務のある50人以上の事業場の21.8%が再発防止対策を実施していないなど、事業場の安全衛生管理体制による差異は認められなかった。

図 I - 4 転倒災害の再発防止対策

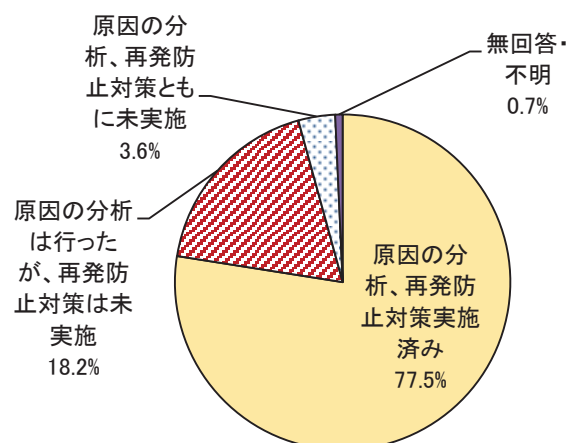


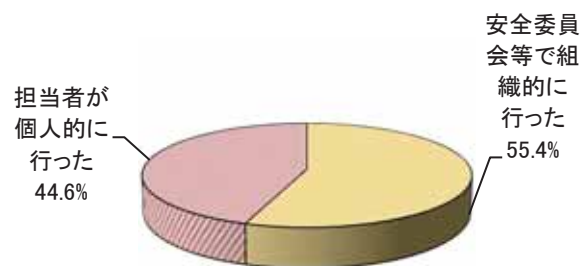
表 I-2 原因分析、再発防止対策実施状況の規模別割合

実施状況	規模	～9人	10～49人	50～99人	100～299人	300人以上	合計	構成比(%)
災害分析、再発防止対策ともに実施済み		31	114	84	57	41	327	77.5
原因分析は実施したが、再発防止対策未実施		7	26	22	18	4	77	18.2
原因分析、再発防止対策ともに未実施		3	5	2	3	2	15	3.6
無回答・不明			2	1			3	0.7
合計		41	147	109	78	47	422	100.0
構成比(%)		9.7	34.8	25.8	18.5	11.1	100.0	

### 6 災害原因の分析等について組織的な検討の有無【図 I-5】

調査対象の転倒災害について、災害原因の分析を行っている場合に、災害原因の分析等を安全委員会等で組織的に検討を行っている事業場は55.4%にとどまっている。

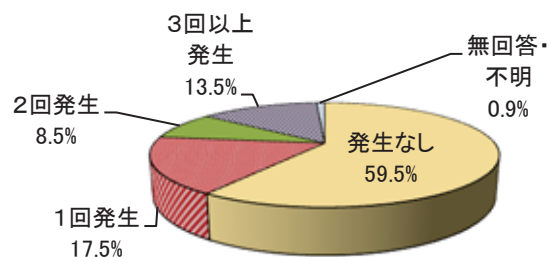
図 I-5 原因分析等の組織的な検討の有無



### 7 過去3か年における転倒災害の発生状況【図 I-6】

調査対象の転倒災害のほかに過去3か年に転倒災害が発生していない事業場が約6割を占めているが、3回以上発生している事業場も13.5%に上っている。

図 I-6 過去3か年における転倒災害発生状況



### 8 転倒災害防止対策の実施状況【図 I-7、表 I-3】

調査対象の転倒災害が発生する前から、何らかの転倒災害防止対策を実施していた事業場は55.9%で、災害発生後に防止対策を実施した事業場を合わせると、約8割を占めている。

また、実施した対策を類型別にまとめると、朝礼時のミーティングなどの際の「安全教育・注意喚起の実施」が最も多く40.3%を占めており、次いで滑り止めやマット等の設置など「設備の改善」が17.5%、滑りにくい靴の使用などの「履物の改善」が16.4%などとなっている。

図 I-7 転倒災害防止対策の実施状況

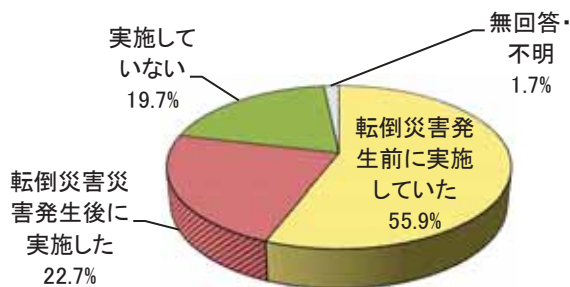


表 I-3 実施した対策

類 型	件数	構成比(%)
設備の改善(滑り止め、マット・手すりの設置、段差の解消等)	74	17.5
4Sの徹底(作業開始時の清掃・片づけ等)	38	9.0
履物の改善(滑りにくい靴の使用等)	69	16.4
安全教育・注意喚起の実施(朝礼時のミーティング等)	170	40.3
安全衛生活動の実施(リスクアセスメント、ヒヤリハット、体操等)	20	4.7
その他(除雪、融雪剤の散布、むしろの設置、凍結防止等)	38	9.0
無回答・不明	13	3.1
合 計	422	100.0

## 9 労災保険請求の有無【表 I-4】

調査対象の転倒災害については、約 96%の事業場が労災保険を請求しているか、又は今後請求を行う予定であると回答しているが、休業日数が少ないなどの理由で労災保険を請求していない事業場も認められる。

表 I-4 労災保険の請求の有無

	件数	構成比(%)
既に労災請求しており、支給を受けている	391	92.7
既に労災請求しているが、支給は受けていない	8	1.9
未だ労災請求していないが、今後請求を行う予定である	4	0.9
労災請求をする意思がない	6	1.4
無回答・不明	13	3.1
合 計	422	100.0

## II 被災労働者に関する事項

### 1 男女別・年齢別の割合【表 II-1】

被災労働者の男女別の割合は、男性が 45.5%、女性が 53.6%で、女性労働者の比率が高くなっている。

また、年齢別では、50 歳以上の中高年齢労働者が 62.6%を占めており、特に、女性では 50 歳以上が 74.3%を占めるなど、その傾向が強くなっている。

表 II-1 男女別・年齢別の割合

年齢	20 歳未満	20～29 歳	30～39 歳	40～49 歳	50～59 歳	60～69 歳	70 歳以上	合計	構成比(%)
性別									
男	2 (1.0)	20 (10.4)	28 (14.6)	46 (24.0)	44 (22.9)	38 (19.8)	14 (7.3)	192 (100)	45.5
女	1 (0.4)	10 (4.4)	15 (6.6)	32 (14.2)	89 (39.4)	72 (31.9)	7 (3.1)	226 (100)	53.6
無回答・不明								4	0.9
合 計	3	30	43	78	133	110	21	422	100.0
構成比(%)	0.7	7.1	10.2	18.5	31.5	26.1	5.0	100.0	

(注) ( )は、性別ごとの構成比



## 2 業種別・年齢別の割合【表Ⅱ-2】

被災労働者のうち50歳以上の占める割合が高いのは、「病院・医院」(88.9%)、「清掃・ビルメンテナンス業」(86.7%)、「道路旅客運送業」(78.6%)、「卸・小売業」(75.4%)の順となっている。

表Ⅱ-2 業種別・年齢別の割合

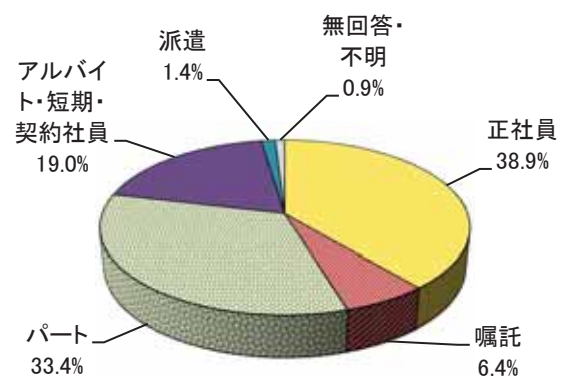
業種	年齢	20歳未満	20～29歳	30～39歳	40～49歳	50～59歳	60～69歳	70歳以上	無回答・不明	合計	構成比(%)
食料品製造業		1 (2.1)	2 (4.2)	4 (8.3)	9 (18.8)	21 (43.8)	11 (22.9)			48 (100)	11.4
機械・金属製造業			2 (8.3)	2 (8.3)	5 (20.8)	13 (54.2)	2 (8.3)			24 (100)	5.7
上記以外の製造業			1 (6.3)	1 (6.3)	5 (31.3)	5 (31.3)	3 (18.8)	1 (6.3)		16 (100)	3.8
建設業		1 (4.3)	4 (17.4)	5 (21.7)	4 (17.4)	1 (4.3)	6 (26.1)		2 (8.7)	23 (100)	5.5
道路旅客運送業			1 (7.1)		2 (14.3)	3 (21.4)	8 (57.1)			14 (100)	3.3
道路貨物運送業			3 (13.0)	5 (21.7)	9 (39.1)	5 (21.7)	1 (4.3)			23 (100)	5.5
林業				1 (20.0)	4 (80.0)					5 (100)	1.2
卸・小売業				6 (9.2)	10 (15.4)	26 (40.0)	18 (27.7)	4 (6.2)	1 (1.5)	65 (100)	15.4
病院・医院					1 (11.1)	5 (55.6)	3 (33.3)			9 (100)	2.1
社会福祉施設			4 (8.0)	6 (12.0)	7 (14.0)	19 (38.0)	13 (26.0)	1 (2.0)		50 (100)	11.8
旅館・ホテル業			1 (5.3)	3 (15.8)	3 (15.8)	2 (10.5)	6 (31.6)	4 (21.1)		19 (100)	4.5
飲食業			2 (13.3)	3 (20.0)	3 (20.0)	2 (13.3)	4 (26.7)	1 (6.7)		15 (100)	3.6
清掃・ビルメンテナンス業				1 (6.7)	1 (6.7)	3 (20.0)	7 (46.7)	3 (20.0)		15 (100)	3.6
警備業			1 (16.7)		2 (33.3)	1 (16.7)	1 (16.7)	1 (16.7)		6 (100)	1.4
その他		1 (1.1)	9 (10.0)	6 (6.7)	13 (14.4)	27 (30.0)	27 (30.0)	6 (6.7)	1 (1.1)	90 (100)	21.3
合計		3	30	43	78	133	110	21	4	422	100.0
構成比(%)		0.7	7.1	10.2	18.5	31.5	26.1	5.0	0.9	100.0	

(注) ( )は、業種ごとの構成比

## 3 雇用形態別の割合【図Ⅱ-1】

雇用形態別の割合をみると、「正社員」が38.9%で、「パート」(33.4%)、「アルバイト・短期・契約社員」(19.0%)、「嘱託」(6.4%)、「派遣」(1.4%)を合わせた非正規雇用労働者は60.2%となっている。

図Ⅱ-1 雇用形態別の割合



#### 4 職種別の割合【表Ⅱ-3】

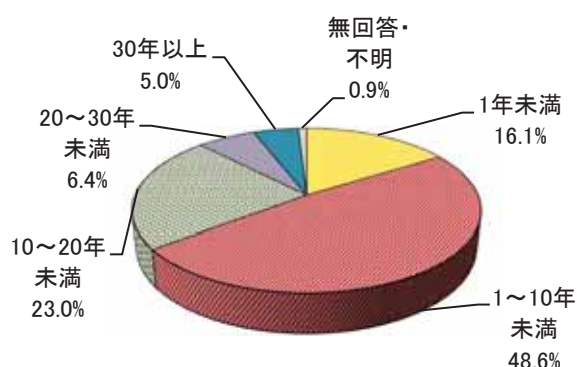
職種別の割合をみると、「現場作業（工場）」が 18.0%と最も多く、次いで、「接客・サービス」（17.5%）、「医療・福祉サービス」（13.0%）、「運転業務」（9.5%）、「事務」（7.1%）の順となっている。

	件数	構成比(%)
事務職	30	7.1
接客・サービス	74	17.5
技術職	19	4.5
清掃サービス	20	4.7
医療・福祉サービス	55	13.0
現場作業(工場)	76	18.0
現場作業(建設)	17	4.0
運転業務	40	9.5
農業従事者	5	1.2
林業従事者	6	1.4
その他の職種	78	18.5
無回答・不明	2	0.5
合計	422	100.0

#### 5 勤続年数別の割合【図Ⅱ-2】

勤続年数別の割合をみると、「1～10年未満」が 48.6%と最も多く、次いで「10～20年未満」（23.0%）、「1年未満」（16.1%）の順となっており、勤続年数 10年未満が 64.7%を占めている。

図Ⅱ-2 勤続年数別の割合



#### 6 年齢別休業日数【表Ⅱ-4-①、②】

現在も休業中を含めて休業日数が 1 か月以上に及んでいる割合は、全体で 53.1%となっている。また、年齢別では、60 歳以上が 65.6%となっており、50 歳代の 46.6%、40 歳代の 55.1%を上回っている。

表Ⅱ-4-① 年齢別・休業日数の割合

年齢 休業日数	20歳 未満	20～ 29歳	30～ 39歳	40～ 49歳	50～ 59歳	60～ 69歳	70歳 以上	無回答・ 不明	合計	構成比(%)
0日		2	1	1	2	1			7	1.7
1～3日		1	3	2	3	5	2		16	3.8
4日～1か月	1	17	17	31	62	34	1	1	164	38.9
1か月～2か月		4	9	24	33	37	6	1	114	27.0
2か月以上	2	3	7	17	24	27	9		89	21.1
現在も休業中		2	5	2	5	4	3		21	5.0
無回答・不明		1	1	1	4	2		2	11	2.6
合計	3	30	43	78	133	110	21	4	422	100.0
構成比(%)	0.7	7.1	10.2	18.5	31.5	26.1	5.0	0.9	100.0	

(注) 網掛け箇所は、休業 1 か月以上

表Ⅱ-4-② 現在も休業中の場合の休業日数

休業日数	件数	構成比(%)
～99日	7	33.3
100日～199日	9	42.9
200日以上	3	14.3

休業日数	件数	構成比(%)
無回答・不明	2	9.5
小計	21	100.0
平均日数	148日	

## 7 業種別被災場所【表Ⅱ-5-①、②、③】

転倒災害が発生した場所をみると、会社敷地内が全体の66.1%を占めており、内訳は、「作業フロア」が24.6%と最も多く、次いで、「駐車場内」が15.6%、「安全通路以外の通路」が7.8%、「安全通路」が5.7%、「階段」が4.0%の順となっている。一方、屋外又は出先で発生した災害は全体の32.9%で、内訳をみると、「公道」が5.0%、「斜面(安全通路以外)」が4.5%、「階段」が3.6%、「安全通路以外の通路」が2.4%の順となっている。

また、業種別の発生状況をみると、「作業フロア」での発生割合が高いのは、飲食業(66.7%)、食料品製造業(62.5%)、清掃・ビルメンテナンス業(40.0%)、上記以外の製造業(31.3%)、社会福祉施設(29.8%)の順となっている。また、運輸業では、駐車場内での発生割合が高く、建設業、林業、警備業などの屋外型産業では、屋外又は出先での発生割合が高くなっている。

表Ⅱ-5-① 業種別被災場所(会社敷地内)

業種	会社敷地内					
	安全通路	安全通路以外の通路	階段	作業フロア	駐車場内	左記以外の場所
食料品製造業	2 (4.2)	5 (10.4)	3 (6.3)	30 (62.5)	5 (10.4)	2 (4.2)
機械・金属製造業	3 (12.5)	6 (25.0)	1 (4.2)	6 (25.0)	4 (16.7)	1 (4.2)
上記以外の製造業	2 (12.5)	2 (12.5)	2 (12.5)	5 (31.3)	1 (6.3)	2 (12.5)
建設業		1 (4.3)		1 (4.3)	2 (8.7)	3 (13.0)
道路旅客運送業		2 (14.3)			7 (50.0)	
道路貨物運送業		1 (4.3)		2 (8.7)	4 (17.4)	
林業	4 (44.4)					
卸・小売業	2 (3.2)	4 (6.3)	1 (1.6)	15 (23.8)	10 (15.9)	6 (9.5)
病院・医院	4 (36.4)	4 (36.4)		1 (9.1)	2 (18.2)	
社会福祉施設	1 (2.1)	1 (2.1)	2 (4.3)	14 (29.8)	7 (14.9)	5 (10.6)
旅館・ホテル業		2 (11.1)	4 (22.2)	4 (22.2)	3 (16.7)	1 (5.6)
飲食業			1 (6.7)	10 (66.7)	2 (13.3)	2 (13.3)
清掃・ビルメンテナンス業		1 (6.7)		6 (40.0)	4 (26.7)	
警備業	1 (16.7)				1 (16.7)	
その他	5 (5.6)	4 (4.4)	3 (3.3)	10 (11.1)	14 (15.6)	13 (14.4)
合計	24	33	17	104	66	35
構成比(%)	5.7	7.8	4.0	24.6	15.6	8.3

(注) ( )は、業種ごとの構成比。網掛け箇所は、業種ごとの発生割合が高い場所。

表Ⅱ-5-② 業種別被災場所(屋外又は出先)

業種	被災場所							
	安全通路	安全通路以外の通路	階段	公道	斜面(公道)	斜面(安全通路)	斜面(左記以外)	その他※
食料品製造業								1 (2.1)
機械・金属製造業		1 (4.2)		1 (4.2)				1 (4.2)
上記以外の製造業							2 (12.5)	
建設業	1 (4.3)	1 (4.3)	1 (4.3)			1 (4.3)	3 (13.0)	8 (34.8)
道路旅客運送業				1 (7.1)	2 (14.3)	1 (7.1)		1 (7.1)
道路貨物運送業	2 (8.7)	1 (4.3)	1 (4.3)	2 (8.7)	1 (4.3)	1 (4.3)		8 (34.8)
林業							5 (55.6)	
卸・小売業	2 (3.2)	2 (3.2)	5 (7.9)	5 (7.9)	2 (3.2)		2 (3.2)	5 (7.9)
病院・医院								
社会福祉施設	2 (4.3)		1 (2.1)	2 (4.3)		2 (4.3)		10 (21.3)
旅館・ホテル業		1 (5.6)	1 (5.6)				1 (5.6)	1 (5.6)
飲食業								
清掃・ビルメンテナンス業		1 (6.7)						3 (20.0)
警備業			1 (16.7)	3 (50.0)				
その他	1 (1.1)	3 (3.3)	5 (5.6)	7 (7.8)	1 (1.1)		6 (6.7)	17 (18.9)
合計	8	10	15	21	6	5	19	55
構成比(%)	1.9	2.4	3.6	5.0	1.4	1.2	4.5	13.0

(注) ( )は、業種ごとの構成比。網掛け箇所は、業種ごとの発生割合が高い場所。



※その他の例

出先の敷地内	8
スキー場ゲレンデ等	6
玄関先	5

表Ⅱ-5-③ 業種別被災場所(合計・構成比)

業種	被災場所	無回答・不明	合計	構成比(%)
食料品製造業			48 (100)	11.4
機械・金属製造業			24 (100)	5.7
上記以外の製造業			16 (100)	3.8
建設業		1 (4.3)	23 (100)	5.5
道路旅客運送業			14 (100)	3.3
道路貨物運送業			23 (100)	5.5
林業			9 (100)	2.1
卸・小売業		2 (3.2)	63 (100)	14.9
病院・医院			11 (100)	2.6
社会福祉施設			47 (100)	11.1
旅館・ホテル業			18 (100)	4.3
飲食業			15 (100)	3.6
清掃・ビルメンテナンス業			15 (100)	3.6
警備業			6 (100)	1.4
その他		1 (1.1)	90 (100)	21.3
合計		4	422	100.0
構成比(%)		0.9	100.0	



## 8 業種別転倒面の種類【表Ⅱ-6-①、②】

転倒面の種類をみると、「舗装路」が全体の40.8%を占めており、業種別にみても林業（未舗装路）及び飲食業（タイル、自然石、人造石等）を除き、最も多くなっている。

表Ⅱ-6-① 業種別転倒面の種類

業種	舗装路	マンホール・グレーチング等	木製床	畳	リノリウム	カーペット等	未舗装路（堅固）
食料品製造業	21 (43.8)	3 (6.3)			2 (4.2)		
機械・金属製造業	12 (50.0)		1 (4.2)		3 (12.5)	1 (4.2)	2 (8.3)
上記以外の製造業	6 (37.5)	2 (12.5)			3 (18.8)		2 (12.5)
建設業	5 (21.7)		1 (4.3)				4 (17.4)
道路旅客運送業	10 (71.4)		1 (7.1)				
道路貨物運送業	16 (69.6)				1 (4.3)		2 (8.7)
林業							1 (20.0)
卸・小売業	26 (40.0)	1 (1.5)	1 (1.5)		2 (3.1)		1 (1.5)
病院・医院	3 (33.3)		1 (11.1)		1 (11.1)		
社会福祉施設	18 (36.0)		4 (8.0)		4 (8.0)	3 (6.0)	2 (4.0)
旅館・ホテル業	6 (31.6)		1 (5.3)			4 (21.1)	1 (5.3)
飲食業	2 (13.3)				1 (6.7)	2 (13.3)	
清掃・ビルメンテナンス業	6 (40.0)		2 (13.3)	1 (6.7)			
警備業	3 (50.0)	1 (16.7)					
その他	38 (42.2)	1 (1.1)	2 (2.2)		3 (3.3)	2 (2.2)	5 (5.6)
合計	172	8	14	1	20	12	20
構成比(%)	40.8	1.9	3.3	0.2	4.7	2.8	4.7

(注) ( )は、業種ごとの構成比。網掛け箇所は、業種ごとの発生割合が高い箇所。

表Ⅱ-6-② 業種別転倒面の種類

業種	転倒面 未舗装路 (軟弱)	タイル、自 然石、人造 石等	その他※	無回答・不 明	合計	構成比(%)
食料品製造業		1 (2.1)	20 (41.7)	1 (2.1)	48 (100)	11.4
機械・金属製造業		1 (4.2)	4 (16.7)		24 (100)	5.7
上記以外の製造業			3 (18.8)		16 (100)	3.8
建設業	2 (8.7)		10 (43.5)	1 (4.3)	23 (100)	5.5
道路旅客運送業	1 (7.1)	1 (7.1)	1 (7.1)		14 (100)	3.3
道路貨物運送業			4 (17.4)		23 (100)	5.5
林業	1 (20.0)		3 (60.0)		5 (100)	1.2
卸・小売業	1 (1.5)	17 (26.2)	14 (21.5)	2 (3.1)	65 (100)	15.4
病院・医院			4 (44.4)		9 (100)	2.1
社会福祉施設		6 (12.0)	13 (26.0)		50 (100)	11.8
旅館・ホテル業	1 (5.3)	2 (10.5)	3 (15.8)	1 (5.3)	19 (100)	4.5
飲食業		5 (33.3)	4 (26.7)	1 (6.7)	15 (100)	3.6
清掃・ビルメンテナンス業		1 (6.7)	5 (33.3)		15 (100)	3.6
警備業	1 (16.7)		1 (16.7)		6 (100)	1.4
その他	1 (1.1)	8 (8.8)	27 (30.0)	3 (3.3)	90 (100)	21.3
合 計	8	42	116	9	422	100.0
構成比(%)	1.9	10.0	27.5	2.1	100.0	

(注) ( ) は、業種ごとの構成比。網掛け箇所は、業種ごとの発生割合が高い箇所。

※その他の例

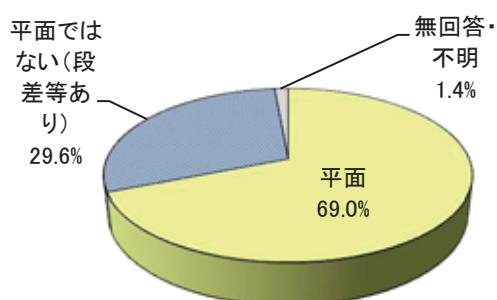
雪面、土、鉄板、マット

## 9 転倒面の状況【表Ⅱ-7-①、②、図Ⅱ-3】

転倒面の状況を見ると、「段差等あり」が約3割を占めており、転倒のリスク要因の一つとなっている。また、「凍結・積雪あり」が約4割を占めており、冬季における大きな転倒要因となっている。さらに、「水」、「障害物」、「砂・粉等」、「油類」の存在が一般的な転倒災害のリスク要因となって発生している。

また、転倒災害の発生割合が最も高かった「作業フロア」に限定してみると、「その他の障害物あり」(46.2%)、「水あり」(40.4%)、「油類あり」(11.5%)、「砂・粉等あり」(1.9%)の順となっており、水と障害物に起因する転倒災害が多いという特徴がある。

図Ⅱ-3 段差等の有無



表Ⅱ-7-① 凍結・積雪等の有無

転倒面の状況 (リスク要因)	凍結・積雪あり	油類あり	水あり	砂・粉等あり	その他の 障害物あり※	合計
件数	160	17	114	26	112	429
構成比(%)	37.9	4.0	27.0	6.2	26.5	101.6

(注)構成比は、回収事業場数(422)に対する割合であり、リスク要因の重複等があるため回収事業場数と合計は一致していない。

※その他の障害物の例

台車	6	段ボール箱	5	テーブル・椅子	3
パレット	6	コード類	4		

表Ⅱ-7-② 作業フロアの状況別発生状況

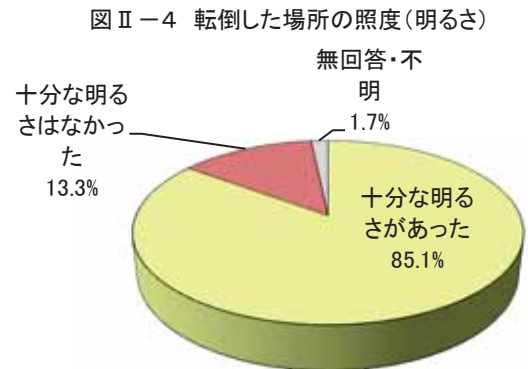
作業フロアの状況		件数	発生割合(%)
油類の有無	有	12	11.5
	無	92	88.5
	無回答・不明	0	0.0
	合計	104	100.0
水の有無	有	42	40.4
	無	62	59.6
	無回答・不明	0	0.0
	合計	104	100.0
砂・粉等の有無	有	2	1.9
	無	101	97.1
	無回答・不明	1	1.0
	合計	104	100.0
その他の障害物の有無	有	48	46.2
	無	55	52.9
	無回答・不明	1	1.0
	合計	104	100.0





## 10 転倒した場所の照度(明るさ)【図Ⅱ-4】

転倒した場所については、転倒面を十分確認できるほどの明るさだったものが大半を占めているが、十分な明るさがなかったものも13.3%認められた。



## 11 業種別発生状況【表Ⅱ-8】

業種別の発生状況を見ると、林業(バランスを崩した)を除き「滑った」が最も多くなっている。

表Ⅱ-8 業種別発生状況

業種	発生状況	滑った	躓いた	踏み外した	何かに足を取られた	バランスを崩した	その他	無回答・不明	合計	構成比(%)
食料品製造業		25 (52.1)	6 (12.5)	3 (6.3)	6 (12.5)	5 (10.4)	3 (6.3)		48 (100)	11.4
機械・金属製造業		9 (37.5)	3 (12.5)		3 (12.5)	8 (33.3)	1 (4.2)		24 (100)	5.7
上記以外の製造業		8 (50.0)	3 (16.7)	1 (6.3)	1 (6.3)	3 (18.8)			16 (100)	3.8
建設業		8 (34.8)	4 (17.4)	3 (13.0)	2 (8.7)	3 (13.0)	2 (8.7)	1 (4.3)	23 (100)	5.5
道路旅客運送業		10 (71.4)	2 (14.3)			2 (14.3)			14 (100)	3.3
道路貨物運送業		16 (69.6)	1 (4.3)	1 (4.3)		3 (13.0)	2 (8.7)		23 (100)	5.5
林業		2 (40.0)				3 (60.0)			5 (100)	1.2
卸・小売業		38 (58.5)	7 (10.8)	3 (4.6)	6 (9.2)	8 (12.3)	2 (3.1)	1 (1.5)	65 (100)	15.4
病院・医院		5 (55.6)	2 (22.2)			2 (22.2)			9 (100)	2.1
社会福祉施設		33 (66.0)	1 (2.0)	4 (8.0)	3 (6.0)	8 (16.0)	1 (2.0)		50 (100)	11.8
旅館・ホテル業		11 (58.7)	2 (10.5)	1 (5.3)	1 (5.3)	4 (21.1)			19 (100)	4.5
飲食業		8 (53.3)	3 (20.0)	1 (6.7)	1 (6.7)	2 (13.3)			15 (100)	3.6
清掃・ビルメンテナンス業		10 (66.7)	2 (13.3)		2		1 (6.7)		15 (100)	3.6
警備業		4 (66.7)	2 (33.3)						6 (100)	1.4
その他		52 (57.8)	11 (12.2)	2 (2.2)	7 (7.8)	11 (12.2)	6 (6.7)	1 (1.1)	90 (100)	21.3
合計		239	49	19	32	62	18	3	422	100.0
構成比(%)		56.6	11.6	4.5	7.6	14.7	4.3	0.7	100.0	

(注) ( )は、業種ごとの構成比。網掛け箇所は、業種ごとの発生割合が高いもの。

### ※その他

パレットの穴に足が入った
コンテナに台車が引っかかった
利用者が倒れそうになり、支えきれなかった
PPバンドが切れた

### 12 男女別発生状況【表Ⅱ－9】

男女別の発生状況を見ると、「滑った」、「踏み外した」、「バランスを崩した」の割合は男性の方がやや高く、一方、「躓いた」、「足を取られた」の割合は女性の方がやや高くなっている。

表Ⅱ－9 男女別発生状況

発生状況 性別	滑った	躓いた	踏み外した	何かに足を取られた	バランスを崩した	その他	無回答・不明	合計	構成比 (%)
男	113 (58.5)	19 (9.8)	10 (5.2)	12 (6.2)	30 (15.5)	9 (4.7)		193 (100)	45.7
女	126 (55.5)	30 (13.2)	9 (4.0)	20 (8.8)	32 (14.1)	9 (4.0)	1 (0.4)	227 (100)	53.8
無回答・不明							2	2	0.5
合計	239	49	19	32	62	18	3	422	100.0
構成比(%)	56.6	11.6	4.5	7.6	14.7	4.3	0.7	100.0	

(注) ( )は、性別ごとの構成比

### 13 雇用形態別発生状況【表Ⅱ－10】

雇用形態別の発生状況を見ると、「足を取られた」、「バランスを崩した」、「滑った」、「踏み外した」の割合は非正規雇用労働者の方がやや高くなっている。

表Ⅱ－10 雇用形態別発生状況

発生状況 雇用形態	滑った	躓いた	踏み外した	何かに足を取られた	バランスを崩した	その他	無回答・不明	合計	構成比 (%)
正社員	101 (61.6)	18 (11.0)	8 (4.9)	12 (7.3)	21 (12.8)	4 (2.4)		164 (100)	38.9
嘱託	18 (66.7)	3 (11.1)	1 (3.7)	3 (11.1)	1 (3.7)	1 (3.7)		27 (100)	6.4
パート	76 (53.9)	18 (12.8)	6 (4.3)	10 (7.1)	22 (15.6)	8 (5.7)	1 (0.7)	141 (100)	33.4
アルバイト・短期・ 契約社員	39 (48.8)	10 (12.5)	3 (3.8)	7 (8.8)	16 (20.0)	5 (6.3)		80 (100)	19.0
派遣	4 (66.7)				2 (33.3)			6 (100)	1.4
無回答・不明	1		1				2	4	0.9
合計	239	49	19	32	62	18	3	422	100.0
構成比(%)	56.6	11.6	4.5	7.6	14.7	4.3	0.7	100.0	

(注) ( )は、雇用形態ごとの構成比

### 14 職種別発生状況【表Ⅱ－11】

職種別の発生状況を見ると、「滑った」の割合は「技術職」、「運転業務」、「清掃サービス」、「医療・福祉サービス」で高く、「躓いた」の割合は「事務職」、「現場作業」で高く、「踏み外した」の割合は「現場作業（建設）」で高く、「足を取られた」の割合は「現場作業（工場）」で高く、「バランスを崩した」の割合は「農業従事者」、「林業従事者」で高くなっている。

表Ⅱ-11 職種別発生状況

発生状況 職種	滑った	躓いた	踏み外した	何かに足を 取られた	バランスを 崩した	その他	無回答・ 不明	合計	構成比 (%)
事務職	17 (56.7)	5 (16.7)	2 (6.7)	2 (6.7)	3 (10.0)	1 (3.3)		30 (100)	7.1
接客・サービス	45 (60.8)	8 (10.8)	2 (2.7)	7 (9.5)	9 (12.2)	2 (2.7)	1 (1.4)	74 (100)	17.5
技術職	15 (78.9)	2 (10.5)			2 (10.5)			19 (100)	4.5
清掃サービス	14 (70.0)	2 (10.0)	1 (5.0)	2 (10.0)		1 (5.0)		20 (100)	4.7
医療・福祉サービス	37 (67.3)	3 (5.5)	4 (7.3)	3 (5.5)	7 (12.7)	1 (1.8)		55 (100)	13.0
現場作業(工場)	32 (42.1)	12 (15.8)	3 (3.9)	11 (14.5)	12 (15.8)	6 (7.9)		76 (100)	18.0
現場作業(建設)	6 (35.3)	4 (23.5)	2 (11.8)	1 (5.9)	3 (17.6)	1 (5.9)		17 (100)	4.0
運転業務	29 (72.5)	2 (5.0)	1 (2.5)		8 (20.0)			40 (100)	9.5
農業従事者	2 (40.0)				3 (60.0)			5 (100)	1.2
林業従事者	3 (50.0)				3 (50.0)			6 (100)	1.4
その他の職種	39 (50.0)	11 (14.1)	4 (5.1)	6 (7.7)	12 (15.4)	6 (7.7)		78 (100)	18.5
無回答・不明							2	2	0.5
合計	239	49	19	32	62	18	3	422	100.0
構成比(%)	56.6	11.6	4.5	7.6	14.7	4.3	0.7	100.0	

(注)( )は、職種ごとの構成比

## 15 勤続年数別発生状況【表Ⅱ-12】

勤続年数別の発生状況をみると、特に有意な特徴は認められなかった。

表Ⅱ-12 勤続年数別発生状況

発生状況 勤続年数	滑った	躓いた	踏み外した	何かに足を 取られた	バランスを 崩した	その他	無回答・ 不明	合計	構成比 (%)
1年未満	39 (57.4)	8 (11.8)	4 (5.9)	2 (2.9)	13 (19.1)	2 (2.9)		68 (100)	16.1
1～10年未満	112 (54.6)	23 (11.2)	9 (4.4)	17 (8.3)	35 (17.1)	8 (3.9)	1 (0.5)	205 (100)	48.6
10～20年未満	57 (58.8)	12 (12.4)	3 (3.1)	7 (7.2)	10 (10.3)	8 (8.2)		97 (100)	23.0
20～30年未満	16 (59.3)	3 (11.1)	1 (3.7)	3 (11.1)	4 (14.8)			27 (100)	6.4
30年以上	13 (61.9)	3 (14.3)	2 (9.5)	3 (14.3)				21 (100)	5.0
無回答・不明	2						2	4	0.9
合計	239	49	19	32	62	18	3	422	100.0
構成比(%)	56.6	11.6	4.5	7.6	14.7	4.3	0.7	100.0	

(注)( )は、勤続年数ごとの構成比

## 16 月別発生状況【表Ⅱ-13】

月別の発生状況を見ると、「滑った」の割合は、1月、2月、3月及び12月に高くなっている。

表Ⅱ-13 月別発生状況

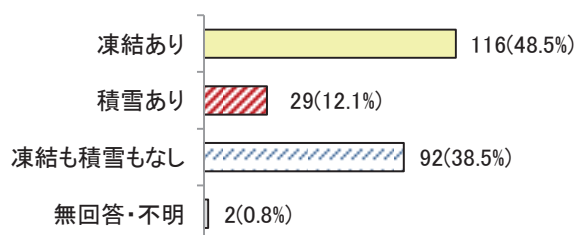
発生状況 発生月	滑った	躓いた	踏み外した	何かに足を を取られた	バランスを 崩した	その他	無回答・ 不明	合計	構成比 (%)
1月	28 (75.7)	1 (2.7)		2 (5.4)	5 (13.5)	1 (2.7)		37 (100)	8.8
2月	114 (88.4)	4 (3.1)		4 (3.1)	7 (5.4)			129 (100)	30.6
3月	16 (57.1)	5 (17.9)		2 (7.1)	3 (10.7)	2 (7.1)		28 (100)	6.6
4月	5 (27.8)	4 (22.2)		4 (22.2)	2 (11.1)	3 (16.7)		18 (100)	4.3
5月	7 (29.2)	1 (4.2)	3 (12.5)	3 (12.5)	9 (37.5)	1 (4.2)		24 (100)	5.7
6月	8 (42.1)	2 (10.5)	5 (26.3)		4 (21.1)			19 (100)	4.5
7月	7 (38.9)	4 (22.2)	2 (11.1)	3 (16.7)	1 (5.6)	1 (5.6)		18 (100)	4.3
8月	11 (37.9)	2 (6.9)	3 (10.3)	4 (13.8)	9 (31.0)			29 (100)	6.9
9月	7 (26.9)	5 (19.2)	3 (11.5)	4 (15.4)	4 (15.4)	3 (11.5)		26 (100)	6.2
10月	7 (23.3)	10 (33.3)	2 (6.7)	1 (3.3)	8 (26.7)	2 (6.7)		30 (100)	7.1
11月	5 (27.8)	4 (22.2)	1 (5.6)		4 (22.2)	4 (22.2)		18 (100)	4.3
12月	22 (53.7)	7 (17.1)		5 (12.2)	5 (12.2)	1 (2.4)	1 (2.4)	41 (100)	9.7
無回答・不明	2				1		2	5	1.2
合計	239	49	19	32	62	18	3	422	100.0
構成比(%)	56.6	11.6	4.5	7.6	14.7	4.3	0.7	100.0	

(注) ( )は、発生月ごとの構成比

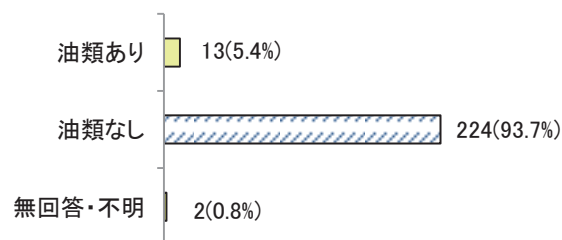
## 17 滑った時の転倒面の状況【図Ⅱ-5-①~④】

発生状況のうち「滑った」ときの転倒面の状況を見ると、凍結又は積雪がある場合、水がある場合の割合が高くなっている。

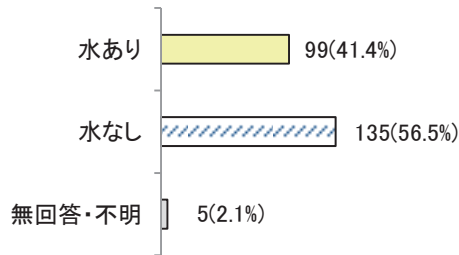
図Ⅱ-5-① 凍結等の有無(滑った)



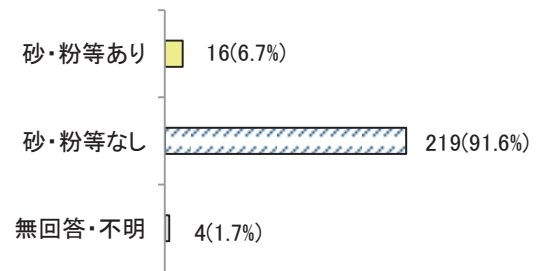
図Ⅱ-5-② 油類の有無(滑った)



図Ⅱ-5-③ 水の有無(滑った)



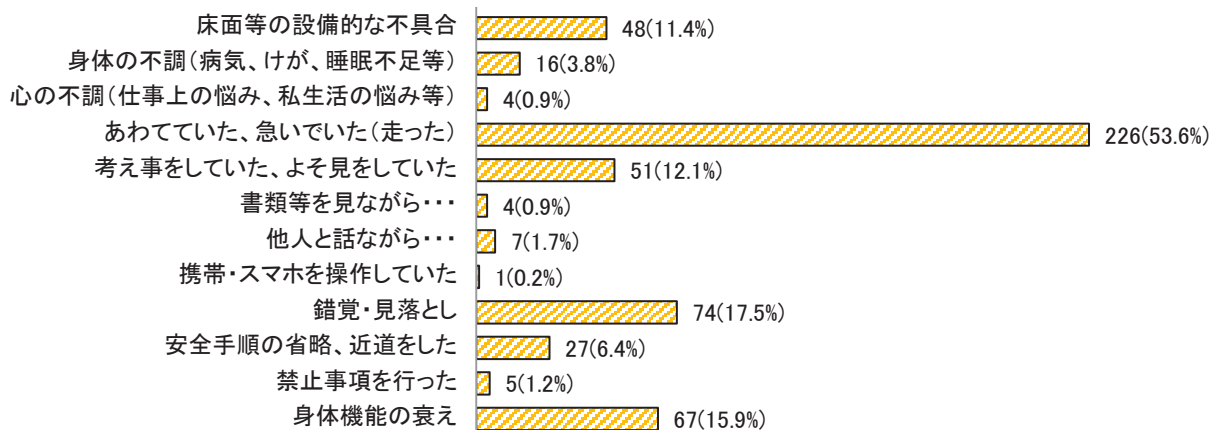
図Ⅱ-5-④ 砂・粉等の有無(滑った)



18 発生原因【図Ⅱ-6】

転倒災害の発生原因をみると、「あわてていた、急いでいた(走った)」の割合が最も高く53.6%を占めており、次いで「錯覚・見落とし」(17.5%)、「身体機能の衰え」(15.9%)、「考え事をしていて、よそ見をしていた」(12.1%)、「床面等の設備的な不具合」(11.4%)の順となっている。

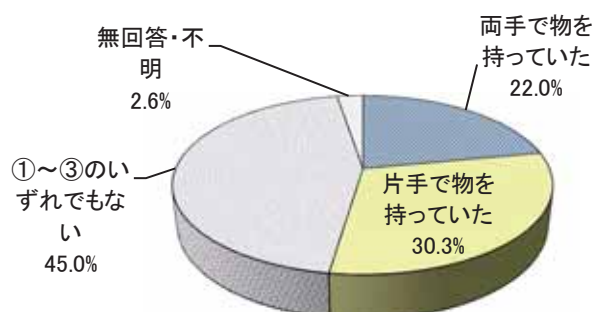
図Ⅱ-6 発生原因(複数回答)



19 発生時の両手の状態【図Ⅱ-7】

転倒災害が発生した時の手の状態をみると、両手又は片手でものを持っていたものが52.3%で過半数を占めている。また、ポケットに手を入れていたもの(いわゆる「ポケ手」)はなかった。

図Ⅱ-7 発生時の両手の状態

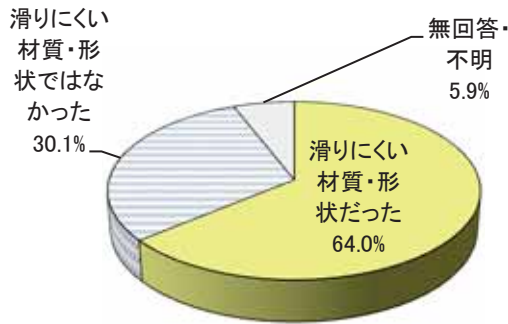


20 発生時の履物の種類、材質・形状【表Ⅱ-14、図Ⅱ-8-①、②、③】

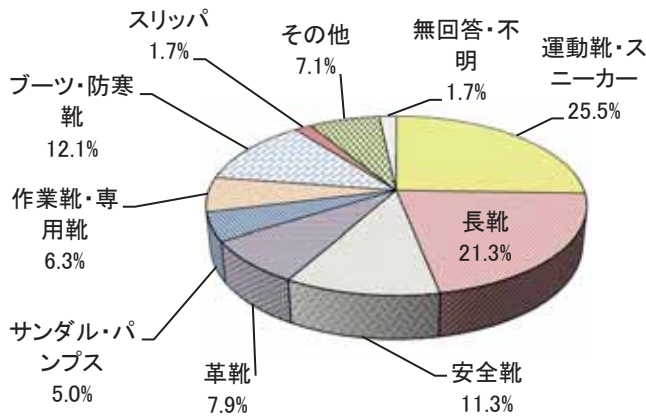
転倒災害が発生した時の履物をみると、「運動靴・スニーカー」が28.9%と最も多く、次いで「長靴」(15.9%)、「安全靴」(15.6%)、「ブーツ・防寒靴」(8.3%)、「革靴」(6.9%)の順となっている。また、履物の材質形状については、滑りにくい材質・形状だったと回答しているものが6割を超えている。

次に、滑った時に着用していた履物をみると、「運動靴・スニーカー」(25.5%)、「長靴」(21.3%)、「ブーツ・防寒靴」(12.1%)、「安全靴」(11.3%)、「革靴」(7.9%)の順となっている。また、滑った時の履物の材質・形状については、滑りにくい材質・形状ではなかったと回答しているものの割合がやや高くなっている。

図Ⅱ-8-① 履物の材質・形状



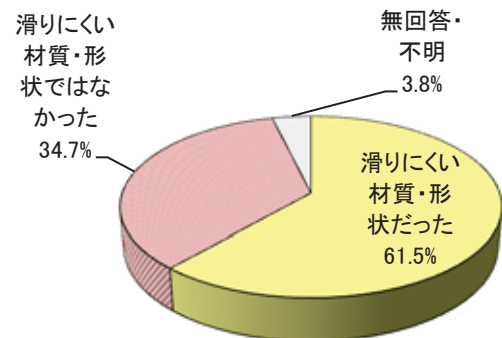
図Ⅱ-8-② 滑った時の履物



表Ⅱ-14 発生時の履物の種類

履物の種類	件数	構成比(%)
運動靴・スニーカー	122	28.9
長靴	67	15.9
安全靴	66	15.6
革靴	29	6.9
サンダル・パンプス	28	6.6
作業靴・専用靴	23	5.5
ブーツ・防寒靴	35	8.3
靴下・はだし	7	1.7
スリッパ	5	1.2
ハイヒール	2	0.5
その他	26	6.2
無回答・不明	12	2.8
合計	422	100.0

図Ⅱ-8-③ 滑った時の履物の材質・形状



21 発生曜日、時間帯【表Ⅱ-15-①、②】

転倒災害が発生した曜日を見ると、月曜日、水曜日、金曜日の割合がやや高くなっている。また、時間帯を見ると、始業時間後の「8:00~10:00」の割合が28.0%と最も高くなっており、午前中に多く発生している。

表Ⅱ-15-① 発生曜日

曜日	件数	構成比(%)
月	76	18.0
火	60	14.2
水	71	16.8
木	58	13.7
金	81	19.2
土	43	10.2
日	21	5.0
無回答・不明	12	2.8
合計	422	100.0

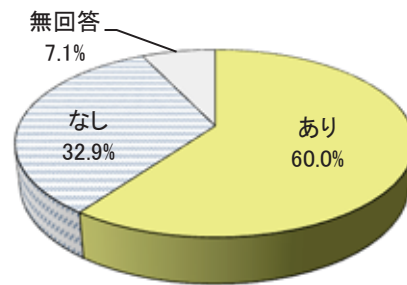
表Ⅱ-15-② 発生時間帯

時間帯	件数	構成比(%)
8:00~10:00	118	28.0
10:00~12:00	86	20.4
12:00~13:00	17	4.0
13:00~15:00	43	10.2
15:00~17:00	56	13.3
17:00~19:00	28	6.6
19:00~24:00	21	5.0
24:00~8:00	46	10.9
無回答・不明	7	1.7
合計	422	100.0

## 22 災害発生前の上司等からの周囲・指示の有無【図Ⅱ－9】

災害発生前に転倒災害を防止するために上司や会社から具体的な注意や指示を受けていたかどうかを尋ねたところ、6割が上司等から指示を受けていたと回答している。

図Ⅱ－9 上司等からの注意・指示の有無



## 23 過去に怪我をした経験、ヒヤリ・ハット等の有無【表Ⅱ－16－①～④】

過去に仕事やプライベートで怪我をした経験の有無をみると、経験がないとする割合が7割を超えており、調査対象の転倒災害を初めて経験した労働者の割合が多くなっている。

また、怪我以外で転倒経験の有無、又は躓きなどのヒヤリ・ハット経験の有無についても、経験がない又は回数が少ないとする労働者の割合が高くなっている。

表Ⅱ－16－① 過去に怪我をした経験の有無

種別	回数	0回	1回	2回	3回	4回以上	無回答・不明	合計
転倒災害		303	50	11	3	5	50	422
構成比(%)		71.8	11.8	2.6	0.7	1.2	11.8	100.0

表Ⅱ－16－② 過去に怪我をした経験の有無

種別	回数	0回	1回	2回	3回	4回以上	無回答・不明	合計
転倒災害以外の災害		301	43	14	6	6	52	422
構成比(%)		71.3	10.2	3.3	1.4	1.4	12.3	100.0

表Ⅱ－16－③ 過去に怪我以外の転倒経験の有無

種別	回数	0回	1回	2回	3回	4回以上	無回答・不明	合計
転倒		229	54	38	20	29	52	422
構成比(%)		54.3	12.8	9.0	4.7	6.9	12.3	100.0

表Ⅱ－16－④ 躓き等のヒヤリハット経験の有無

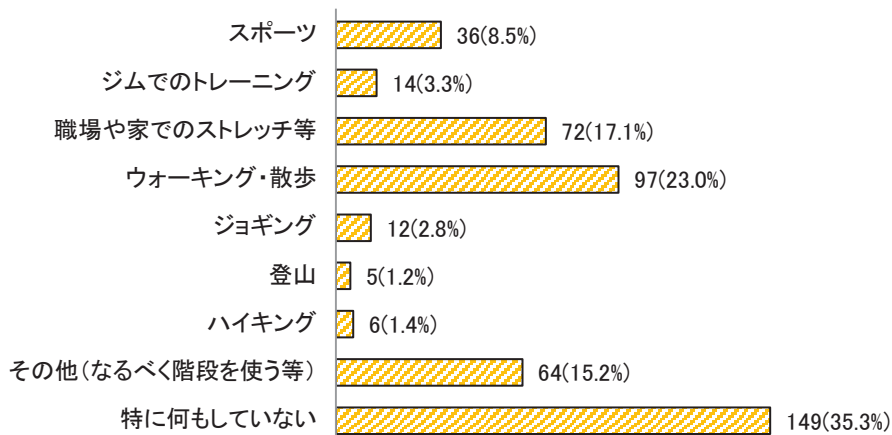
種別	回数	5回以内	10回以内	20回以内	20回以上	無回答・不明	合計
ヒヤリ・ハット		291	39	13	12	67	422
構成比(%)		69.0	9.2	3.1	2.8	15.9	100.0

## 24 体力づくり等で取り組んでいる運動等【図Ⅱ－10】

体力づくり等で定期的に取り組んでいる運動や活動をみると、「特に何もしていない」とする労働者の割合が最も多くなっている。

取り組んでいる運動等の中では、ウォーキングが 23.0%、職場や家でのストレッチ等が 17.1%などとなっている。

図Ⅱ－10 体力づくり等に取り組んでいる運動等(複数回答)

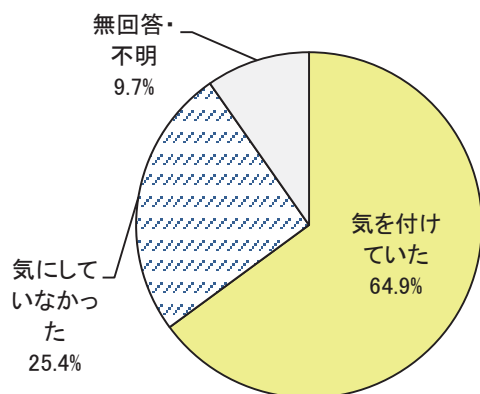


## 25 転倒災害に対する注意、安全意识【図Ⅱ－11－①、②】

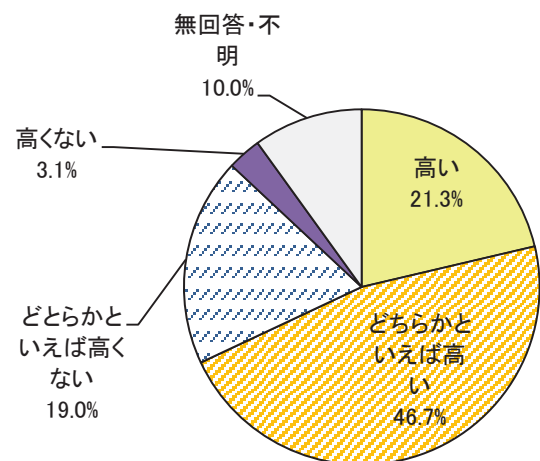
転倒災害に対する普段からの注意の有無を尋ねたところ、過半数が「気を付けていた」と回答している。

また、日ごろの安全意识について尋ねたところ、約7割が「高いほうだと思う」又は「どちらかといえば高い」と回答している。

図Ⅱ－11－① 転倒災害に対する注意



図Ⅱ－11－② 日ごろの安全意识





### Ⅲ 冬季要因(積雪又は凍結)により発生した転倒災害の状況

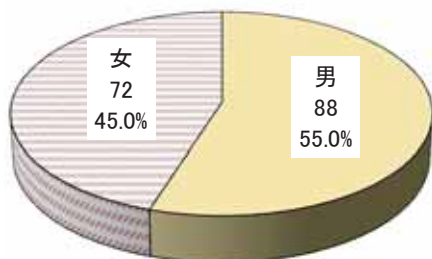
#### 1 業種別の割合【表Ⅲ-1】

積雪又は凍結により発生した 160 件の業種別の割合をみると、転倒災害全体の傾向に比べて道路旅客運送業と道路貨物運送業の割合が上昇し、食料品製造業の割合は逆に減少している。

#### 2 男女別の割合【図Ⅲ-1】

積雪又は凍結により発生した 160 件の男女別の割合をみると、男性が 55%で女性を上回っている。

図Ⅲ-1 積雪・凍結ありの男女別割合



表Ⅲ-1 積雪・凍結ありの業種別割合

業種	積雪・凍結	構成比(%)
食料品製造業	9	5.6
機械・金属製造業	8	5.0
上記以外の製造業	4	2.5
建設業	6	3.8
道路旅客運送業	10	6.3
道路貨物運送業	14	8.8
林業	2	1.3
卸・小売業	25	15.6
病院・医院	4	2.5
社会福祉施設	16	10.0
旅館・ホテル業	9	5.6
飲食業	2	1.3
清掃・ビルメンテナンス業	6	3.8
警備業	3	1.9
その他	42	26.3
合計	160	100.0

#### 3 職種別の割合【表Ⅲ-2】

積雪又は凍結により発生した 160 件の職種別の割合をみると、「接客・サービス」(17.5%)、「運転業務」(16.3%)、「医療・福祉サービス」(11.3)の順となっており、転倒災害全体の割合に比べて「運転業務」の割合が 6.8 ポイント上昇し、逆に「現場作業(工場)」の割合が 9.2 ポイント減少している。

表Ⅲ-2 積雪・凍結ありの職種別割合

職種	積雪・凍結	構成比(%)
事務職	15	9.4
接客・サービス	28	17.5
技術職	10	6.3
清掃サービス	9	5.6
医療・福祉サービス	18	11.3
現場作業(工場)	14	8.8
現場作業(建設)	4	2.5
運転業務	26	16.3
農業従事者	1	0.6
林業従事者	2	1.3
その他の職種	33	20.6
合計	160	100.0



#### 4 被災場所別の割合【表Ⅲ-3】

積雪又は凍結により発生した160件の被災場所別の割合をみると、会社敷地内が58.8%を占めている。また、「駐車場内」が約3分の1を占めている。

表Ⅲ-3 積雪・凍結ありの被災場所別割合

被災場所		積雪・凍結	構成比(%)
会社敷地内	駐車場内	54	33.8
	通路	22	13.8
	その他	18	11.3
	小計	94	58.8
敷地外・出先	斜面	13	8.1
	公道(斜面以外)	12	7.5
	通路	12	7.5
	その他	29	18.1
	小計	66	41.3
合計		160	100.0

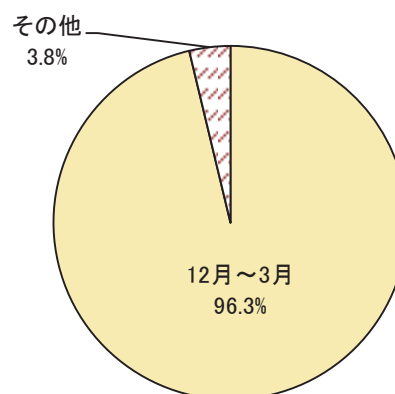
#### 5 月別の割合【表Ⅲ-4、図Ⅲ-2】

積雪又は凍結により発生した160件の月別の割合をみると、ほとんどが12月～3月に発生している。

表Ⅲ-4 積雪・凍結ありの月別割合

月別	積雪・凍結	構成比(%)
1月	25	15.6
2月	101	63.1
3月	11	6.9
4月	1	0.6
5月		0.0
6月	1	0.6
7月		0.0
8月		0.0
9月	1	0.6
10月		0.0
11月	2	1.3
12月	17	10.6
無回答・不明	1	0.6
合計	160	100.0

図Ⅲ-2 積雪・凍結ありの月別割合



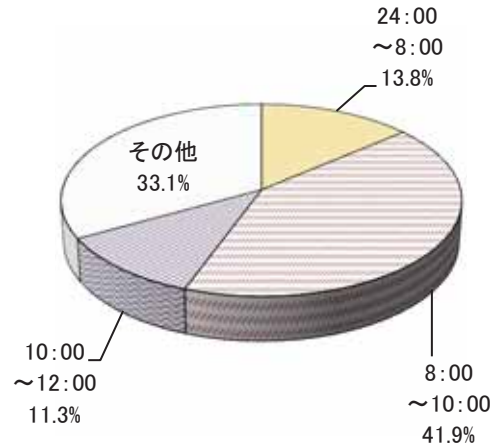
## 6 発生時間帯別の割合【表Ⅲ-5、図Ⅲ-3】

積雪又は凍結により発生した 160 件の発生時間帯別の割合をみると、深夜から早朝に集中していることがうかがえる。

表Ⅲ-5 積雪・凍結ありの発生時間帯別

発生時間帯	積雪・凍結	構成比(%)
8:00～10:00	67	41.9
10:00～12:00	18	11.3
12:00～13:00	5	3.1
13:00～15:00	8	5.0
15:00～17:00	14	8.8
17:00～19:00	14	8.8
19:00～24:00	11	6.9
24:00～8:00	22	13.8
無回答・不明	1	0.6
合計	160	100.0

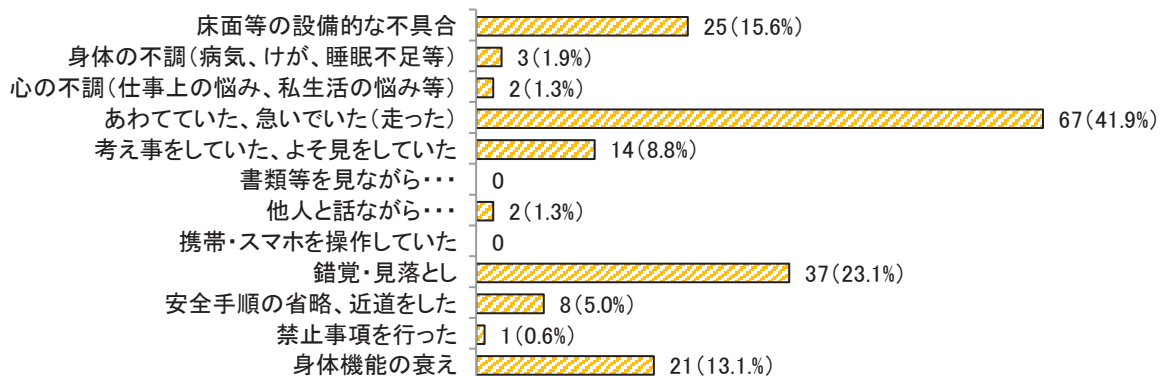
図Ⅲ-3 積雪・凍結ありの発生時間帯別



## 7 発生原因【図Ⅲ-4】

積雪又は凍結により発生した 160 件の発生原因の割合をみると、転倒災害全体の割合に比べて、「床面等の設備的な不具合」を挙げる割合が 4.2 ポイント、また「錯覚・見落とし」を挙げる割合が 5.6 ポイント上昇しているのに対して、「あわてていた、急いでいた（走った）」の割合は 11.7 ポイント減少している。

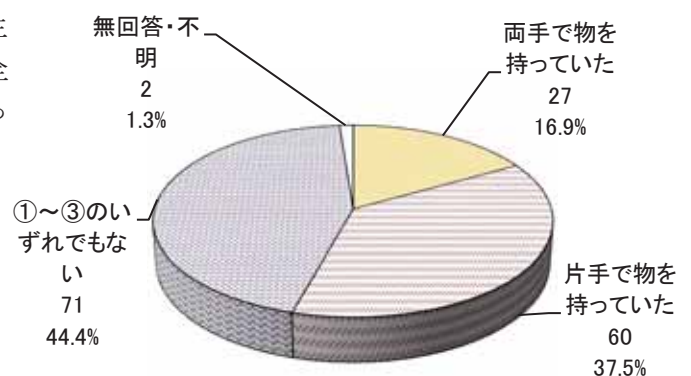
図Ⅲ-4 積雪・凍結ありの発生原因(複数回答)



## 8 発生時の両手の状態【図Ⅲ-5】

積雪又は凍結により発生した 160 件の発生時の両手の状態別の割合をみると、転倒災害全体の割合に比べて、両手又は片手で荷物を持っていた割合が 2.1 ポイント上昇している。

図Ⅲ-5 発生時の両手の状態



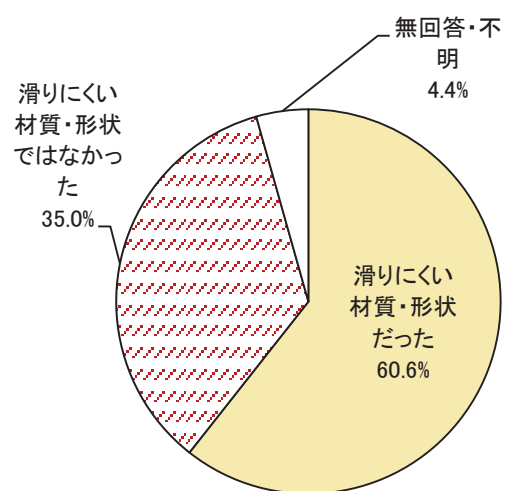
### 9 発生時の履物の種類、材質・形状【表Ⅲ-6、図Ⅲ-6】

積雪又は凍結により発生した160件の発生時の履物をみると、転倒災害全体の割合とおおむね同様の傾向が表れている。

表Ⅲ-6 積雪時等の履物の種類

履物の種類	件数	構成比(%)
運動靴・スニーカー	39	24.4
長靴	37	23.1
安全靴	20	12.5
革靴	14	8.8
サンダル・パンプス	3	1.9
作業靴・専用靴	2	1.3
ブーツ・防寒靴	30	18.8
スリッパ	0	0.0
その他	15	9.4
無回答・不明	0	0.0
合計	160	100.0

図Ⅲ-6 積雪・凍結時の履物の材質・形状



## 集計表

### I 事業場に係る設問

#### ◆ 問1 主たる業種は何ですか？

① 食料品 製造業	② 機械・金属 製造業	③ ①、②以外 の製造業	④ 建設業	⑤ 道路旅客 運送業	⑥ 道路貨物 運送業	⑦ 林業	⑧ 卸・小売業
48 (11.4%)	24 (5.7%)	16 (3.8%)	23 (5.5%)	14 (3.3%)	23 (5.5%)	5 (1.2%)	65 (15.4%)

⑨ 病院・医院	⑩ 社会福祉 施設	⑪ 旅館・ホテル 業	⑫ 飲食業	⑬ 清掃・ビル メンテナ ンス業	⑭ 警備業	⑮ その他	合計
9 (2.1%)	50 (11.8%)	19 (4.5%)	15 (3.6%)	15 (3.6%)	6 (1.4%)	90 (21.3%)	422 (100%)

#### ◆ 問2 労働者数（パート・アルバイト・契約社員・派遣労働者等も含めてください。）

① 10人未満	② 10～49人	③ 50～99人	④ 100～299人	⑤ 300人以上	合計
41 (9.7%)	147 (34.8%)	109 (25.8%)	78 (18.5%)	47 (11.1%)	422 (100%)

#### ◆ 問3 安全衛生管理体制について教えてください。

① 安全管理者等を選任し ている	② 安全管理者等を選任し ていない	無回答・不明	合計
349 (82.7%)	70 (16.6%)	3 (0.7%)	422 (100%)

#### ◆ 問4 安全衛生対策として取り組んでいる内容を教えてください。（複数回答可）

① 労働安全衛生マネ ジメントシステム	② リスク アセスメント	③ 危険予知訓練	④ 4S（又は5S） 活動	⑤ 安全提案制度
73 (17.3%)	154 (36.5%)	111 (26.3%)	253 (60.0%)	54 (12.8%)

⑥ 安全委員会 （毎月1回以上）	⑦ トップによる 職場巡視	⑧ ヒヤリ・ハット 報告	⑨ いずれも実施して いない
222 (52.6%)	199 (47.2%)	243 (57.6%)	15 (3.6%)

（注）（ ）内は、対象事業場数（422事業場）に対する割合



- ◆ 問5 貴事業場が根絶したいと考え、重点的に防止対策を講じている災害の種類は何ですか？（最大3つまでお答えください。）

① 墜落・転落 災害	② 転倒災害	③ 崩壊・倒壊 災害	④ 機械等へのは さまれ・巻き込 まれ災害	⑤ 刃物、加工物等 による切れ・こ すれ災害	⑥ 有害物等（高 温・低温のもの を含む）との接 触災害
80 (19.0%)	289 (68.5%)	19 (4.5%)	116 (27.5%)	114 (27.0%)	28 (6.6%)

⑦ 感電災害	⑧ 爆発・火災 災害	⑨ ボイラー等の 破裂災害	⑩ 腰痛災害	⑫ 交通災害
9 (2.1%)	26 (6.2%)	4 (0.9%)	135 (32.0%)	232 (55.0%)

（注）（ ）内は、対象事業場数（422事業場）に対する割合

- ◆ 問6 本調査の対象となった転倒災害について、同種の災害を防止するための対策を講じましたか？

① 災害原因の分析を行い、再発防止策を講じた	327(77.5%)
② 災害原因の分析は行ったが、再発防止策は未実施	77(18.2%)
③ 災害原因の分析も再発防止策も未実施	15(3.6%)
無回答・不明	3(0.7%)
合計	422(100%)

- ◆ 問7 上記6の設問において①又は②を回答された事業場にお聞きします。実施した災害原因の分析等については安全委員会等で組織的に行ったものですか？それとも、担当者が個人的に行ったものですか？

① 安全委員会等で組織的に行った	225(53.3%)
② 担当者が個人的に行った	181(42.9%)
無回答・不明	16(3.8%)
合計	422(100%)

- ◆ 問8 貴事業場において、過去3か年に本調査の対象となった転倒災害の他に転倒による労働災害（休業0日も含む）は発生していますか？

① 発生して いない	② 発生している (1回)	③ 発生している (2回)	④ 発生している (3回以上)	無回答・不明	合計
251(59.5%)	74(17.5%)	36(8.5%)	57(13.5%)	4(0.9%)	422(100%)

- ◆ 問9 貴事業場では、本調査の対象となった転倒災害が発生する以前に、転倒災害を防止するための何らかの対策（フロアの防滑対策、滑りにくい履物の採用、フロア・階段等のバリアフリー化、労働者への転倒予防のための健康づくり、転倒防止のための労働者に対する安全教育等）を実施していましたか？

① 実施していた	236(55.9%)
② (実施していないが) 災害発生後に実施した	96(22.7%)
③ 実施していない。また、災害発生後も実施していない	83(19.7%)
無回答・不明	7(1.7%)
合計	422(100%)

- ◆ 問10 上記9で①又は②を回答された事業場にお聞きします。実施した対策はどのようなものですか？具体的にお書きください。

類 型	実施数	主な内容
設備の改善	74(17.5%)	フロア・階段等の滑り止め、マットの設置、手すりの設置、段差の解消、床面の色を変更
4Sの徹底	38(9.0%)	作業開始時等に床の落下物を各自が拾う
履物の改善	69(16.4%)	滑りにくい靴の使用、作業靴のスリップサインを2か月1回チェックする
安全教育、注意喚起の実施	170(40.3%)	朝礼時のミーティング、手順書の確認、注意喚起シール等による表示、ポスター等の掲示
安全衛生活動	20(4.7%)	リスクアセスメント、ヒヤリ・ハット報告、体操・ストレッチ
その他	38(9.0%)	除雪、融雪剤の散布、むしろの設置、凍結防止
無回答・不明	13(3.1%)	
合計	422(100%)	

- ◆ 問11 本件転倒災害に関する労災保険請求について、該当する項目をお答えください。

① 既に労災請求しており、支給を受けている	391(92.7%)
② 既に労災請求しているが、支給は受けていない	8(1.9%)
③ 未だ労災請求していないが、今後請求を行う予定である	4(0.9%)
④ 労災請求をする意思がない	6(1.4%)
無回答・不明	13(3.1%)
合計	422(100%)

## Ⅱ 被災者に関する質問

### ◆ 問1 性別

① 男	② 女	無回答・不明	合計
192(45.5%)	226(53.6%)	4(0.9%)	422(100%)

### ◆ 問2 年齢

① 20歳未満	② 20～29歳	③ 30～39歳	④ 40～49歳	⑤ 50～59歳	⑥ 60～69歳	⑦ 70歳以上	合計
3(0.7%)	30(7.1%)	43(10.2%)	78(18.5%)	133(31.5%)	110(26.1%)	21(5.0%)	422(100%)

### ◆ 問3 雇用形態

① 正社員	② 嘱託	③ パート	④ アルバイト・短期・契約社員	⑤ 派遣	無回答・不明	合計
164(38.9%)	27(6.4%)	141(33.4%)	80(19.0%)	6(1.4%)	4(0.9%)	422(100%)

### ◆ 問4 職種

① 事務職	② 接客・サービス	③ 技術職	④ 清掃サービス	⑤ 医療・福祉サービス	⑥ 現場作業(工場)	⑦ 現場作業(建設)
30(7.1%)	74(17.5%)	19(4.5%)	20(4.7%)	55(13.0%)	76(18.0%)	17(4.0%)

⑧ 運転業務	⑨ 農業従事者	⑩ 林業従事者	⑪ その他の職種	無回答・不明	合計
40(9.5%)	5(1.2%)	6(1.4%)	78(18.5%)	2(0.5%)	422(100%)

### ◆ 問5 勤続年数

① 1年未満	② 1～10年未満	③ 10～20年未満	④ 20～30年未満	⑤ 30年以上	無回答・不明	合計
68(16.1%)	205(48.6%)	97(23.0%)	27(6.4%)	21(5.0%)	4(0.9%)	422(100%)





◆ 問6 あなたが怪我をした転倒災害について教えてください。

(1) 休業日数

① 0日	② 1～3日	③ 4日～1か月	④ 1か月～2か月	⑤ 2か月以上	⑥ 現在も休業中
7(1.7%)	16(3.8%)	164(38.9%)	114(27.0%)	89(21.1%)	21(5.0%)

(休業__日目)					無回答・ 不明	合計
～99日	100日～199日	200日以上	無回答・ 不明	平均		
7(33.3%)	9(42.9%)	3(14.3%)	2(9.5%)	148日	11(2.6%)	422(100%)

(2) 被災場所

会社敷地内					
① 安全通路	② 安全通路以外 の通路	③ 階段	④ 作業フロア	⑤ 駐車場内	⑥ ①～⑤以外の 場所
24(5.7%)	33(7.8%)	17(4.0%)	104(24.6%)	66(15.6%)	35(8.3%)

屋外現場又は出先					
⑦ 安全通路	⑧ 安全通路以外 の通路	⑨ 階段	⑩ 公道	⑪ 斜面 (公道)	⑫ 斜面 (安全通路)
8(1.9%)	10(2.4%)	15(3.6%)	21(5.0%)	6(1.4%)	5(1.2%)

屋外現場又は出先		無回答	合計
⑬ 斜面 (⑪、⑫以外)	⑭ その他※		
19(4.5%)	55(13.0%)	4(0.9%)	422(100%)

※その他の例

出先の敷地内	8
スキー場のゲレンデ	6

玄関先	5
-----	---

## (3) 転倒面

① 舗装路	② マンホール・ グレーチング 等	③ 木製床	④ 畳	⑤ リノリウム	⑥ カーペット等
172 (40.8%)	8 (1.9%)	14 (3.3%)	1 (0.2%)	20 (4.7%)	12 (2.8%)

⑦ 未舗装路 (堅固)	⑧ 未舗装路 (軟弱)	⑨ タイル、自然 石、人造石等	⑩ その他※	無回答・不明	合計
20 (4.7%)	8 (1.9%)	42 (10.0%)	116 (27.5%)	9 (2.1%)	422 (100%)

※その他の例

雪面、土、鉄板、マット
-------------

## (4) 転倒面の段差等

① 平面	② 平面ではない (段差、窪み等あり)	無回答・不明	合計
291 (69.0%)	125 (29.6%)	6 (1.4%)	422 (100%)

## (5) 転倒面の凍結等の有無

① 凍結あり	② 積雪あり	③ 凍結も積雪もなし	無回答・不明	合計
122 (28.9%)	38 (9.0%)	257 (60.9%)	5 (1.2%)	422 (100%)

## (6) 転倒面の油類の有無

① 油類あり	② 油類なし	無回答・不明	合計
17 (4.0%)	399 (94.5%)	6 (1.4%)	422 (100%)

## (7) 転倒面の水の有無

① 水あり	② 水なし	無回答・不明	合計
114 (27.0%)	300 (71.1%)	8 (1.9%)	422 (100%)

## (8) 転倒面の砂・粉等の有無

① 砂・粉等あり	② 砂・粉等なし	無回答・不明	合計
26 (6.2%)	387 (91.7%)	9 (2.1%)	422 (100%)

## (9) 転倒面におけるその他の障害物等の有無

① その他あり※	② その他なし	無回答・不明	合計
112(26.5%)	302(71.6%)	8(1.9%)	422(100%)

## ※その他の例

台車	6	段ボール箱	5
パレット	6	コード類	4

## (10) 転倒した場所の照度(明るさ)

① 転倒面が十分確認できるほどの明るさだった	359(85.1%)
② 十分な明るさはなかった	56(13.3%)
無回答・不明	7(1.7%)
合計	422(100%)

## (11) 発生状況について教えてください。

① 滑った	② 躓いた	③ 踏み外した	④ 何かに足を 取られた	⑤ バランス を崩した	⑥ その他 ※	無回答・ 不明	合計
239 (56.6%)	49 (11.6%)	19 (4.5%)	32 (7.6%)	62 (14.7%)	18 (4.3%)	3 (0.7%)	422(100%)

## ※その他の例

パレットの穴に足が入った コンテナに台車が引っかかった 利用者が倒れそうになり、支えきれなかった PPバンドが切れた
---

## (12) 上記(11)のようになった原因は何だと思えますか？(複数回答可)

① 床面等の設備的な不具合	48(11.4%)
② 身体の不調(病気、けが、睡眠不足等)	16(3.8%)
③ 心の不調(仕事上の悩み、私生活の悩み等)	4(0.9%)
④ あわてていた、急いでいた(走った)	226(53.6%)
⑤ 考え事をしていて、よそ見をしていた	51(12.1%)
⑥ 書類を見ながら・・・	4(0.9%)
⑦ 他人と話しながら・・・	7(1.7%)
⑧ 携帯・スマホを操作していた	1(0.2%)
⑨ 錯覚・見落とし	74(17.5%)
⑩ 安全手順の省略、近道をした	27(6.4%)
⑪ 禁止事項を行った	5(1.2%)
⑫ 身体機能の衰え	67(15.9%)

(注) ( )内は、対象事業場数(422事業場)に対する割合

(13) 災害時の両手の状態はどうでしたか？

① 両手で物を持っていた	93 (22.0%)
② 片手で物を持っていた	128 (30.3%)
③ 手をポケットに入れていた	0 (0.0%)
④ ①～③のいずれでもない	190 (45.0%)
無回答・不明	11 (2.6%)
合計	422 (100%)

(14) 災害時の履物について、革靴、ハイヒール、スリッパ、サンダル、安全靴等具体的にお書きください。

運動靴・スニーカー	長靴	安全靴	革靴	サンダル・パンプス	作業靴・専用靴	ブーツ・防寒靴
122 (28.9%)	67 (15.9%)	66 (15.6%)	29 (6.9%)	28 (6.6%)	23 (5.5%)	35 (8.3%)

スリッパ	ハイヒール	靴下・はだし	その他	無回答・不明	合計
5 (1.2%)	2 (0.5%)	7 (1.7%)	26 (6.2%)	12 (2.8%)	422 (100%)

(15) 履物の靴底は滑りにくい材質・形状（後付けの物を含みます。）でしたか？

① 滑りにくい材質・形状だった	② 滑りにくい材質・形状ではなかった	無回答・不明	合計
270 (64.0%)	127 (30.1%)	25 (5.9%)	422 (100%)

(16) 災害が発生したのは、何月でしたか？

① 1月	② 2月	③ 3月	④ 4月	⑤ 5月	⑥ 6月	⑦ 7月
37 (8.8%)	129 (30.6%)	28 (6.6%)	18 (4.3%)	24 (5.7%)	19 (4.5%)	18 (4.3%)

⑧ 8月	⑨ 9月	⑩ 10月	⑪ 11月	⑫ 12月	無回答・不明	合計
29 (6.9%)	26 (6.2%)	30 (7.1%)	18 (4.3%)	41 (9.7%)	5 (1.2%)	422 (100%)

(17) 災害は発生した曜日を教えてください。

① 月	② 火	③ 水	④ 木	⑤ 金	⑥ 土	⑦ 日	無回答・不明	合計
76 (18.0%)	60 (14.2%)	71 (16.8%)	58 (13.7%)	81 (19.2%)	43 (10.2%)	21 (5.0%)	12 (2.8%)	422 (100%)

(18) 災害が発生した時間帯を教えてください。

①	②	③	④	⑤
8 : 00～10 : 00	10 : 00～12 : 00	12 : 00～13 : 00	13 : 00～15 : 00	15 : 00～17 : 00
118(28.0%)	86(20.4%)	17(4.0%)	43(10.2%)	56(13.3%)

⑥	⑦	⑧	無回答・不明	合計
17 : 00～19 : 00	19 : 00～24 : 00	24 : 00～8 : 00		
28(6.6%)	21(5.0%)	46(10.9%)	7(1.7%)	422(100%)

(19) 災害が発生する以前に転倒災害を防止するために上司や会社から具体的な注意や指示を受けたことがありますか。

① ある	② ない	無回答・不明	合計
253(60.0%)	139(32.9%)	30(7.1%)	422(100%)

◆ 問7 過去に仕事及びプライベートで怪我をしたことがありますか？

(1) 転倒災害

① 0回	② 1回	③ 2回	④ 3回	⑤ 4回以上	無回答・不明	合計
303(71.8%)	50(11.8%)	11(2.6%)	3(0.7%)	5(1.2%)	50(11.8%)	422(100%)

(2) 転倒を除く災害

① 0回	② 1回	③ 2回	④ 3回	⑤ 4回以上	無回答・不明	合計
301(71.3%)	43(10.2%)	14(3.3%)	6(1.4%)	6(1.4%)	52(12.3%)	422(100%)

◆ 問8 仕事及びプライベートで、怪我にまでは至らなかった転倒等の経験はありますか？

(1) 転倒

① 0回	② 1回	③ 2回	④ 3回	⑤ 4回以上	無回答・不明	合計
229(54.3%)	54(12.8%)	38(9.0%)	20(4.7%)	29(6.9%)	52(12.3%)	422(100%)

(2) 躓き等のヒヤリハット

① 5回以内	② 10回以内	③ 20回以内	④ 20回以上	無回答・不明	合計
291(69.0%)	39(9.2%)	13(3.1%)	12(2.8%)	67(15.9%)	422(100%)

◆ 問9 体力づくり等で定期的に取り組んでいる運動や活動は何ですか？（複数回答可）

① スポーツ	36(8.5%)
② ジムでのトレーニング	14(3.3%)
③ 職場や家でのストレッチ	72(17.1%)
④ ウォーキング・散歩	97(23.0%)
⑤ ジョギング	12(2.8%)
⑥ 登山	5(1.2%)
⑦ ハイキング	6(1.4%)
⑧ その他（なるべくエレベーター等を使わず階段を使う等）	64(15.2%)
⑨ 特に何もしていない	149(35.3%)

（注）（ ）内は、対象事業場数（422事業場）に対する割合

◆ 問10 転倒災害については、普段から十分に気を付けていたと思いますか？

① 気を付けていた	② 気にしていなかった	無回答・不明	合計
274(64.9%)	107(25.4%)	41(9.7%)	422(100%)

◆ 問11 あなたは、日ごろの安全意識は高いほうだと思いますか？

① 高いほうだと思う	90(21.3%)
② どちらかといえば高いほうだと思う	197(46.7%)
③ どちらかといえば高くないほうだと思う	80(19.0%)
④ 高くはないと思う	13(3.1%)
無回答	42(10.0%)
合計	422(100%)



# 転倒災害に関する実態調査票

平成 26 年 8 月  
〇〇労働基準監督署

〔記入要領〕

- 1 IIの被災労働者に係る設問については、被災労働者本人に面談調査の上、事業場の安全担当者等が記入してください。  
なお、被災労働者が、現在、退職等の理由により在籍していない場合は、わかる範囲で記入してください。
- 2 各設問の選択項目のうち最も近い項目を選んでください。次に、実態調査回答票の該当する欄に選択した項目の丸数字を記入してください。  
設問 I の問 10 及び II の問 6-(14)並びに回答項目が ( ) となっているものを選択した場合は、その内容を具体的にお書きください。
- 3 (複数回答可) となっている場合を除き、回答は一つだけとしてください。

## I 事業場に係る設問

問 1 主たる業種は何ですか？

- ① 食料品製造業 ② 機械・金属製造業※ ③ ①及び②以外の製造業 ④ 建設業  
⑤ 道路旅客運送業 ⑥ 道路貨物運送業 ⑦ 林業 ⑧ 卸・小売業  
⑨ 病院・医院 ⑩ 社会福祉施設 ⑪ 旅館・ホテル業 ⑫ 飲食業  
⑬ 清掃・ビルメンテナンス業 ⑭ 警備業 ⑮ その他

※ 金属製品製造業、一般機械器具製造業、電気機械器具製造業及び輸送用機械器具製造業の場合は、②を選択してください。

問 2 労働者数 (パート・アルバイト・契約社員・派遣労働者等も含めてください。)

- ① 10 人未満 ② 10～49 人 ③ 50～99 人 ④ 100～299 人 ⑤ 300 人以上

問 3 安全衛生管理体制について教えてください。

- ① 安全管理者等 (※) を選任している。 ② 安全管理者等を選任していない。

※ 労働者数 10 人以上の事業場における「安全衛生推進者」、「安全推進者」を含みます。

問 4 安全衛生対策 (※) として取り組んでいる内容を教えてください。(複数回答可)

- ① 労働安全衛生マネジメントシステム ② リスクアセスメント ③ 危険予知訓練  
④ 4S (又は 5S) 活動 ⑤ 安全提案制度 ⑥ 安全委員会 (毎月 1 回以上)  
⑦ トップによる職場巡視 ⑧ ヒヤリ・ハット報告 ⑨ ①～⑧のいずれも実施していない

※「安全衛生対策」について

- **労働安全衛生マネジメントシステム**とは、安全衛生水準の向上を図ることを目的として事業者が一連の過程（計画→実施→評価→改善）を定めて自主的に行う安全衛生管理の仕組みをいいます。
- **リスクアセスメント**とは、事業場における危険源（リスク）を特定し、そのリスクの危険度を数値化し、評価したうえで、そのリスクを除去あるいは低減する措置をいいます。
- **危険予知活動**とは、労働者の危険予知の能力を高めるために行う活動又は訓練のことをいい、危険の K、予知の Y、訓練（トレーニング）の T をとって KYT と呼ばれています。
- **4S 活動**とは、職場活動で「整理」、「整頓」、「清掃」、「清潔」の頭文字をとった呼称です。5Sとは、それらに「躰（しつけ）」を加えたものをいいます。
- **ヒヤリ・ハット報告**とは、作業の中で、「ヒヤリ」としたり、「はっ」とした経験を報告させ、災害を未然に防止する活動をいいます。

問5 貴事業場が根絶したいと考え、重点的に防止対策を講じている災害の種類は何ですか？  
（最大3つまでお答えください。）

- ① 墜落・転落災害 ② 転倒災害 ③ 崩壊・倒壊災害 ④ 機械等へのはさまれ・巻き込まれ災害 ⑤ 刃物、加工物等による切れ・こすれ災害 ⑥ 有害物等（高温・低温の物を含む）との接触災害 ⑦ 感電災害 ⑧ 爆発・火災災害 ⑨ ボイラー等の破裂災害 ⑩ 腰痛災害 ⑪ 交通災害

問6 本調査の対象となった転倒災害について、同種の災害を防止するための対策を講じましたか？

- ① 災害原因の分析を行い、再発防止策を講じた ② 災害原因の分析は行ったが、再発防止策は未実施 ③ 災害原因の分析も再発防止策も未実施

問7 上記6の設問において①又は②を回答された事業場にお聞きします。実施した災害原因の分析等については安全委員会等で組織的に行ったものですか？それとも、担当者が個人的に行ったものですか？

- ① 安全委員会等で組織的に行った ② 担当者が個人的に行った。

問8 貴事業場において、過去3か年に本調査の対象となった転倒災害の他に転倒による労働災害（休業0日も含む）は発生していますか？

- ① 発生していない ② 発生している（1回） ③ 発生している（2回） ④ 発生している（3回以上）

問9 貴事業場では、本調査の対象となった転倒災害が発生する以前に、転倒災害を防止するための何らかの対策（フロアの防滑対策、滑りにくい履物の採用、フロア・階段等のバリアフリー化、労働者への転倒予防のための健康づくり、転倒防止のための労働者に対する安全教育等）を実施していましたか？

- ① 実施していた ②（実施していないが）災害発生後に実施した ③ 実施していない。また、災害発生後も実施していない



問10 上記9で①又は②を回答された事業場にお聞きします。実施した対策はどのようなものですか？具体的にお書きください。

( \_\_\_\_\_ )

問11 本件転倒災害に関する労災保険請求について、該当する項目をお答えください。

- ① 既に労災請求しており、支給を受けている
- ② 既に労災請求しているが、支給は受けていない
- ③ 未だ労災請求していないが、今後請求を行う予定である
- ④ 労災請求をする意思がない

具体的な理由を記入してください ( \_\_\_\_\_ )

## II 被災労働者に係る設問

問1 性別 ① 男 ② 女

問2 年齢 ① 20歳未満 ② 20～29歳 ③ 30～39歳 ④ 40～49歳  
⑤ 50～59歳 ⑥ 60～69歳 ⑦ 70歳以上

問3 雇用形態

- ① 正社員 ② 嘱託 ③ パート ④ アルバイト・短期・契約社員 ⑤ 派遣

問4 職種

- ① 事務職 ② 接客・サービス ③ 技術職 ④ 清掃サービス
- ⑤ 医療・福祉サービス ⑥ 現場作業（工場） ⑦ 現場作業（建設）
- ⑧ 運転業務 ⑨ 農業従事者 ⑩ 林業従事者 ⑪ その他の職種

問5 勤続年数

- ① 1年未満 ② 1～10年未満 ③ 10～20年未満 ④ 20～30年未満
- ⑤ 30年以上

問6 あなたが怪我をした転倒災害について教えてください。

- (1) 休業日数(※) ① 0日 ② 1～3日 ③ 4日～1か月 ④ 1か月～2か月  
⑤ 2か月以上 ⑥ 現在も休業中(休業 \_\_\_\_\_ 日目)

※「休業日数」は、怪我をした当日は含めず、翌日から暦日によりカウントして下さい。

(2) 被災場所

- [会社敷地内] ① 安全通路(※) ② 安全通路以外の通路 ③ 階段  
④ 作業フロア ⑤ 駐車場内 ⑥ ①～⑤以外の場所

※「安全通路」は、会社が安全に通行できるよう定め、通路であることを表示しているものをいいます。それ以外の通路は「安全通路以外の通路」となります。

[屋外現場又は  
出先] ⑦ 安全通路 ⑧ 安全通路以外の通路 ⑨ 階段 ⑩ 公道  
⑪ 斜面 (公道) ⑫ 斜面 (安全通路) ⑬ 斜面 (⑪及び⑫以外)  
⑭ その他 (\_\_\_\_\_)

(3) 転倒面 ① 舗装路 ② マンホール・グレーチング等 ③ 木製床 ④ 畳  
⑤ リノリウム※ ⑥ カーペット等 ⑦ 未舗装路 (堅固)  
⑧ 未舗装路 (軟弱) ⑨ タイル、自然石、人造石等  
⑩ その他 (\_\_\_\_\_)

※「リノリウム」は、天然素材の床仕上げ材の一種で、亜麻仁油などの樹脂類、コルク粉、顔料などを混ぜたものです。

(4) 転倒面の段差等 ① 平面 ② 平面ではない (段差、窪み等あり)

(5) 転倒面の凍結等の有無 ① 凍結あり ② 積雪あり ③ 凍結も積雪もなし

(6) 転倒面の油類の有無 ① 油類あり ② 油類なし

(7) 転倒面の水の有無 ① 水あり ② 水なし

(8) 転倒面の砂・粉等の有無 ① 砂・粉等あり ② 砂・粉等なし

(9) 転倒面におけるその他の障害物等の有無  
① その他 (\_\_\_\_\_ ) あり ② その他なし

(10) 転倒した場所の照度 (明るさ)  
① 転倒面が十分確認できるほどの明るさだった  
② 十分な明るさはなかった

(11) 発生状況について教えてください。  
① 滑った ② 躓いた ③ 踏み外した ④ 何かに足を取られた  
⑤ バランスを崩した ⑥ その他 (\_\_\_\_\_)

(12) 上記 (11) のようになった原因は何だと思えますか? (複数回答可)  
① 床面等の設備的な不具合 ② 身体の不調 (病気、けが、睡眠不足等)  
③ 心の不調 (仕事上の悩み、私生活の悩み等) ④ あわてていた、急いでいた (走った)  
⑤ 考え事をしていて、よそ見をしていた ⑥ 書類等を見ながら・・・  
⑦ 他人と話ながら・・・ ⑧ 携帯・スマホを操作していた ⑨ 錯覚・見落とし  
⑩ 安全手順の省略、近道をした ⑪ 禁止事項を行った ⑫ 身体機能の衰え

(13) 災害時の両手の状態はどうでしたか?  
① 両手で物を持っていた ② 片手で物を持っていた ③ 手をポケットに入れていた  
④ ①～③のいずれでもない

(14) 災害時の履物について、革靴、ハイヒール、スリッパ、サンダル、安全靴等具体的にお書きください ( \_\_\_\_\_ )

(15) 履物の靴底は滑りにくい材質・形状（後付けのものを含みます。）でしたか？

- ① 滑りにくい材質・形状だった ② 滑りにくい材質・形状ではなかった

(16) 災害が発生したのは、何月ですか？

- ① 1月 ② 2月 ③ 3月 ④ 4月 ⑤ 5月 ⑥ 6月  
⑦ 7月 ⑧ 8月 ⑨ 9月 ⑩ 10月 ⑪ 11月 ⑫ 12月

(17) 災害が発生した曜日を教えてください。

- ① 月 ② 火 ③ 水 ④ 木 ⑤ 金 ⑥ 土 ⑦ 日

(18) 災害が発生した時間帯を教えてください。

- ① 8:00～10:00 ② 10:00～12:00 ③ 12:00～13:00 ④ 13:00～15:00  
⑤ 15:00～17:00 ⑥ 17:00～19:00 ⑦ 19:00～24:00 ⑧ 24:00～8:00

(19) 災害が発生する以前に転倒災害を防止するために上司や会社から具体的な注意や指示を受けたことがありますか？ ① ある ② ない

問7 過去に仕事及びプライベートで怪我をしたことがありますか？

- (1) 転倒災害 (① 0回 ② 1回 ③ 2回 ④ 3回 ⑤ 4回以上)  
(2) 転倒を除く災害 (① 0回 ② 1回 ③ 2回 ④ 3回 ⑤ 4回以上)

問8 仕事及びプライベートで、怪我にまでは至らなかった転倒等の経験はありますか？

- (1) 転倒 (① 0回 ② 1回 ③ 2回 ④ 3回 ⑤ 4回以上)  
(2) 躓き等のヒヤリハット (①5回以内 ②10回以内 ③20回以内 ④20回以上)

問9 体力づくり等で定期的に取り組んでいる運動や活動は何ですか？（複数回答可）

- ① スポーツ ② ジムでのトレーニング ③ 職場や家でのストレッチ等  
④ ウォーキング・散歩 ⑤ ジョギング ⑥ 登山 ⑦ ハイキング  
⑧ その他（なるべくエレベーター等を使わず階段を使う等） ⑨ 特に何もしていない

問10 転倒災害については、普段から充分に気をつけていたと思いますか？

- ① 気をつけていた ② 気にしていなかった

問11 あなたは、日ごろの安全意識は高いほうだと思いますか？

- ① 高いほうだと思う ② どちらかといえば高いほうだと思う ③ どちらかといえば高くないほうだと思う ④ 高くはないと思う

---

ご協力ありがとうございました

この調査票は会社控えとして保管してください。回答票は〇〇労働基準監督署にファックスにより提出してください。

提出用

FAX 送信先 ○○労働基準監督署（FAX 番号：○○○ - ○○ - ○○○○）

転倒災害に関する実態調査（回答票）

事業場名		所在地	電話 ( )
		記入者氏名	
		所属部課	

I 事業場に係る設問

問 1		問 2		問 3		問 4	(複数回答可)	問 5	(最大 3 つまで)
問 6		問 7		問 8		問 9			
問 10	(左記の 9 で①又は②の場合に、実施した対策)					問 11	④の場合 ( )		

II 被災者に係る設問

問 1		問 2		問 3		問 4		問 5	
問 6(1)	⑥の場合 ( 日目 )	問 6(2)	⑭の場合 ( )	問 6(3)	⑩の場合 ( )	問 6(4)			
問 6(5)		問 6(6)		問 6(7)		問 6(8)		問 6(9)	①の場合 ( )
問 6(10)		問 6(11)	⑥の場合 ( )	問 6(12)	(複数回答可)	問 6(13)			
問 6(14)		問 6(15)		問 6(16)		問 6(17)		問 6(18)	
問 6(19)		問 7(1)		問 7(2)	(複数回答可)	問 8(1)		問 8(2)	
問 9	(複数回答可)	問 10		問 11		※署記入欄		署番号	連番

【本調査に関する照会先】 ○○労働基準監督署（TEL ○○○ - ○○○ - ○○○○）

